



津市一身田町2843
高田中・高等学校内
樹心同窓会事務局
電話 059-232-2442

高田学苑

開校一五〇周年



ご挨拶
同窓会会長
伊藤 清一

コロナ旋風は衰える事を知らぬかのように吹き荒れている感がありますが、樹心同窓会会員の皆様におか



ご挨拶
学苑長
高臣 文祥

同窓の皆様にはお元気でご活躍のことをお慶び申し上げます。

コロナ禍も三年目に入り、現在のオミクロン株による第六波がやや下降線にある状況下で、五月の大型連休は、各地で三年ぶりに制限なしで観光客を迎え、経済社会活動もいよいよ本格化しているように思います。とはいえ、今後まだまだ予断を許さず、学苑においては、中高・短大ともに感染対策を取り一部行事を見直すなどしながらほぼ通常の学苑運営が行われています。

れましては、益々御健勝の事とお喜び申し上げますとともに、日頃の御協力に対し心よりお礼申し上げます。本会におきましては、永年副会長を務めて頂きました長谷川博さんに代り、古川達也（昭和五十八年中六卒）さんが副会長に就任されました。なお長谷川博さんは今後役員とし

さて、今年が高田学苑開校一五〇周年を迎えます。そこでこれを記念して六月十二日には記念式典を催す予定です。参加者を少なくするなど感染予防を最優先にして実施したい所存です。

学苑が一五〇年の長い歴史を経て順調に発展した姿で今日を迎えることができるのは、一重に先人たちが諸先輩の皆さんのご努力の賜と心から敬意と感謝を表すところです。

ところで、三重県においても少子化は今後急速に進みます。身近な例で申しますと、令和四年の中学卒業生の数は、一六、一七九人でした。一方で令和元年の出生者数は、一一、一九〇人（三重県厚生統計）、この子たちが中学三年になる令和

て御協力頂く事には変わりありません事を御報告させて頂きます。昨年、三重県知事選挙において一見勝之（昭和五十六年中六卒業）さんが、又衆議院議員選挙で三重一区において田村憲久（昭和五十五年中三卒業）さんが見事当選されました。お二人には心よりおめでとうご

十七年には現在より約四、五〇〇人減少することになります。ちなみにこの数は、公立学校で学年三二〇人の大規模学校が一四校いなくなるということになります。これが近い将来の現実の姿です。こうした少子化の現実を前にして、今後の五十年に向けて学苑を維持しさらに発展させていくために、教職員一同が学苑の建学の精神を基として日々研鑽を重ねて教育に取り組んでいかねばならぬと、一五〇年を迎えるにあたってあらためて強く思いを致すところです。

昨年十月、学苑にとって大変うれしいことがありました。一見勝之知事の誕生です。一見知事は昭和五十六年、本校六年制の卒業生です。

ざいまずと申し上げるとともに、今後の益々のご活躍を期待いたします。今年本校創立一五〇周年の歴史を作るべく学苑発展に尽力された当時の恩師を思い、青春時代を過ごした当時に思いを馳せるとともに、学苑長先生をはじめ、諸先生方の多大な御努力により、偉大ともいえるべき現在の学苑を目の当たりにすると、唯々感謝するとともに卒業生として誇りに胸が大きくなる思いがいたします。

を交付させて頂きましたが、国体出場権を得たにも関わらず、国体中止のため出場の機会を失った選手にも敬意を表したいと思えます。運営委員会において、今年こそ総会をと種々検討をさせて頂きました。が、昨今の状態では中止せざるを得ないとの結論に至りました。来令和五年は八月六日（日）を予定しております。是非多数の皆様がご参加ください。

三重県の私立学校は教育委員会の管轄下にはなく独立しており、知事の直轄となつております。そこでこれまでの教育行政を鑑みますと、三重の教育という場合に私立学校はその枠外にあって、脇の方でそれぞれが教育活動を行う存在のように扱われていると私には感じられていました。そうした中で一見知事が誕生したことは大変素晴らしいことだと歓迎しているのは私一人ではないでしょう。いきなりたくさんの望みを聞き届けて欲しいとは思っておりません。ただ私学に対する目配りをして頂く、そのことだけで私たち私学人にとっては嬉しいことなのです。そういう意味でも一見知事の今後の施策に期待しています。

新聞報道でご存じかもしれませんが、今年から津市におきまして津市内に存在する私立学校への『ふるさと納税』の制度が始まりました。これも学苑同窓の前妻幸市長（昭和五十三年高田中学卒）のご英断によるものです。

この機会に津市外にお住いの先輩あるいは保護者の方で本校にご寄付いただけましたら有難く存じます。今年も学苑は頑張つて高田の教育に邁進して参ります。諸先輩におかれましては変わらぬご支援のほどを何卒よろしくお願い致します。





ご挨拶

中高校長
鷲尾 尚史

同窓の皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育についてご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

今年高田学苑は開校百五十周年を迎えます。これも偏に同窓諸先輩方のご苦勞、ご活躍のおかげと深く感謝しますとともに、現場を預かる身として、次の五十年に向けて優れた人材を世に送り出していくことに邁進して参る所存でございます。同窓の皆さまにはさらなるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症一年目の一昨年に比べ、二年目の昨年度は



ご挨拶と
現状報告

短大学長
梅林 久高

徐々にではありますが県内の感染状況を見ながら、行事を行うことができようになりました。一年目には行えなかった校外宿泊研修(修学旅行)は、中学三年生は一泊二日で南紀白浜方面、五年生、高校II年生は二泊三日で淡路・徳島方面と、期間を短縮し、行き先は公共交通機関を

使わずに行ける近場にするので行うことができました。中学生の比較山校外宿泊学習(林間学校)は、前年度いけなかった二年生が、学年を二つのグループに分け、それぞれが一泊二日で行いました。今年度も、中学一年生、二年生が同じ方法で行うことを予定しています。また、体育祭は東西グラウンドを使用し二日間で学年ごとに行い、文化祭もクラス展示を無くし、中学生は講堂、高校生は体育館でそれぞれ部活動の発表や、有志によるパフォーマンスなど

を短縮し、行き先は公共交通機関を使わずに行ける近場にするので行うことができました。中学生の比較山校外宿泊学習(林間学校)は、前年度いけなかった二年生が、学年を二つのグループに分け、それぞれが一泊二日で行いました。今年度も、中学一年生、二年生が同じ方法で行うことを予定しています。また、体育祭は東西グラウンドを使用し二日間

どを楽しみました。

卒業式は昨年同様に感染拡大防止のため、来賓の方々と在校生の出席をなくし、卒業生と保護者、教職員のみで卒業生を送り出しました。III年生、六年生合わせて五百六十四名の卒業生がそれぞれの希望を胸に新しい世界へと進んでいきました。進学、就職の状況の詳細につきましては会報に記載されております。センター試験が共通テストに代わり、出題傾向も大きく変化した大学入試でしたが、進路指導部を中心に対応し、また生徒もよく頑張り立派な進学実績であったと思います。近年の状況といたしましては、三年制からいわゆる難関国立大学への合格者が毎年出ていることは非常に喜ばしいこと

とであり、昨年度は大阪大学外国語学部など多くの大学に合格していきま

で東京大学理科III類、京都大学医学部に合格するなど難関国公立大学などで相変わらずの好成績を収め、進学校としての面目躍如といったところ

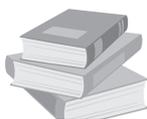
です。部活動では、コロナ禍のなか感染症対策を徹底して様々な大会が行われました。同窓会からも十三クラブ九十一名の生徒に激励金を交付していただきました。高文祭では将棋部の男子生徒が個人戦で全国優勝、文芸部の女子生徒が詩部門で全国最優秀賞受賞など活躍しています。詳細

につきましては各部活動の報告をご覧ください。今年度につきましても、県の高校総体や津市の春季中体連はすでに実施されており、また、現時点でインターハイなどの全国大会も開催される予定となっておりますので生徒の皆さんの活躍を期待して

今年度の募集では少子化の中、中学生二百七名、高校生四百六名の新生を迎え定員を確保することができました。高校入試ではウエブ出願

を初めて取り入れて行いました。中学では昨年度から、高校では今年度から学習指導要領が改定となり、教科・科目が新しくなり、また、評価の方法も大きく変更になるなど多くの課題がありますが、生徒の皆さんのことを最優先にしながら対応していきます。

今年度も、同窓会総会も取りやめとなり、同窓の皆様から中高の学校教育について貴重なご意見をお伺いすることができずとも残念です。お気づきの点などございましたら是非お気軽にご連絡いただければと存じます。



同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととご推察申し上げます。今年もコロナ禍はワクチン接種開始にもかかわらず拡大し、経済活動にも影響を与え、地域社会や

人間関係の絆にまで不安と孤独感をもたらすなどの悪影響が出てきています。本学でもコロナ対策委員会を

面授業で行われています。子ども学科・介護福祉コースの施設実習が中止延期にならないために、学生たちに日々の健康管理の徹底を強く求めています。今は安穏とした平常の生

活に戻れることを望むばかりです。令和三年度の卒業式(卒業証書書式位授与式)は、残念ながらコロナ禍のために卒業生・教職員のみで行い、卒業生二二〇名(子ども学科

一二八名・キャリア育成学科オフィ
スワークコース六八名・介護福祉
コース(二四名)が、各種ライセンス
を取得し、本学の卒業としての誇り
と修学した学力・スキルを身につけ
て、それぞれの自己実現と希望を胸
に実社会へと羽ばたいて行きました。
卒業生は、コロナ禍で入学し卒業
という変則的な高短祭をはじめ
学生自治会の行事などが縮小とな
り、キャンパスライフを満喫するこ
とができませんでした。また、育児
文化研究・介護福祉研究・仏教教育
研究各センターの諸活動も中止、縮
小。さらには、情操教育と人間形成
の涵養に重要な仏教行事も三密回避
で実施。特に施設実習が実施でき
るか否か危惧していましたが、無事に
終了することができました。各施設
のご高配により実習できましたこと
は、本学との長きにわたり築かれて
きた信頼関係によるものと感謝して
おります。実習を重ねることにより
学生達は就労の責任感やさらに意欲
を高め多くのことを学んだと確信し
ています。

就職状況については、キャリアセ

ンター長の情報をご高覧ください
幸甚です。好調な結果であったと喜
んでいます。子ども学科で、公務員
幼稚園教諭、保育士に十三名が合格
キャリア支援センターの教職員の皆
様の豊かな経験に基づくノウハウと、
親身な指導により成果を上げること
ができました。今年にはコロナ禍とロ
シアのウクライナへの軍事進攻によ
る影響で経済の悪化が心配され、求
人募集も鈍化するのではないかと心
配されますので、緊張感を持って対
応していく決意です。

今年度もコロナの感染拡大を憂慮
しつつスタート。入学式は、学生・
保護者・教職員で行いました。子ど
も学科一五八名・キャリア育成学科
オフィスワークコース六一名・キャ
リア育成学科介護福祉コース三十名。
合計二四九名を迎えスタート。介護
福祉コースは日本人学生(社会人含
十四名、留学生十六名)が入学。全国
的に日本人の進学者が減少している
状況で目的意識の高い学生が増加し
たことは望外の喜びです。募集確保
が厳しいなか、このような充足の背
景には、高大連携校をはじめ、各高

校との密接な入試広報活動の成果と、
伝統ある本学への期待と信頼に支え
られている証であると喜んでいきます。
同時に学生達の人間形成と自己実
現・目標達成のために着実に育成し
ていく責務を痛感しています。

入学式後に新入生全員が本山参詣
を行い、国宝指定の御影堂、如来堂
に参拝。親鸞聖人の生涯や教えの一
端に触れ、建学の精神を理解する良
き日となりました。四月の新入生研
修は一日に縮小して実施。子ども学
科は短大にて、キャリア育成学科は
白山ヴィレッジにて行いました。マ
スクを着けての交流、親睦の時空の
ためコミュニケーションに一抹の不安は
ありましたが元気な声と笑顔であふ
れていました。好天にも恵まれ、学
生達の親睦が深まった研修となりま
した。

昨年、一般財団法人大学・短期大
学基準協会による認証評価が七年ぶり
に行われ、教育全領域からリーダー
ガバナンスにわたり膨大な資料を作
成提出、聞き取りなどの審査を経て、
その結果「適格認定」に合格しました。
喫緊の最重要課題は、やはり少子化

の進む状況での募集確保です。四大
への志向と県外流出の強まる傾向の
中で、本学の魅力と充実した教育内
容をいかに可視化して発信し、知名
度を高めていくかがより強く求めら
れています。学生の目線に照準を合
わせた多彩で立体的な募集活動を展
開していきたいと思っております。そ
の一つの策として、オフィスワーク

コースでは目下カリキュラムの改革
に着手し、地域で活躍し即戦力とな
る人材の育成を目指しています。地
域活性化の一視点から本山専修寺を
中心にして形成された寺内町の一身
田町の町づくり短大生がアイデア
を出し活動を展開する計画です。ま
た、今年も介護福祉センター主催の
「介護のみらいを考えよう」との作
文コンクールを企画。県市教育委員
会、各メディアをはじめ各種団体よ
り後援を頂き、小学五・六年生、中
学全学年を対象に募集の結果、県内
から六三八作品が集まり、二十三名
を表彰。全ての作文の行間から、高
齢者への温かい眼差しの表現に感動
しました。若い人々を育てていくこ
とが未来につながり、必ず実を結ぶ

と確信しています。また、子ども学
科では、地権者の方のご好意により
短大の周辺の山林を借用し、自然保
育体験フィールドづくりに模索しな
がら活動に取り組んでいます。

この様に多彩で有機的な活動を通
して活気ある短大作りを目指してい
ます。勿論、高等教育機関としての
質的向上をより高め、人格形成の涵
養と、時代に相応し、地域社会に貢
献しうる人材育成を果たさなければ
なりません。開校一五〇周年を契機
としてさらなる飛躍をめざし全教職
員が一致団結、協力し、無限の可能
性をもった一人一人の学生達に寄り
そって教育にあたっていきます。是
非、皆様の知恵やご協力を頂き、短
大に一層ご支援頂ければ幸いです。

なお、最後に津市のふるさと納税
寄付先に短大を指定できるようにな
りましたので本学の教育環境の充実
に是非ご助力をお願い申し上げます。



新任教職員紹介

- 一、氏名
- 二、担当教科・部署
- 三、趣味・特技
- 四、着任のことば

中・高等学校

- 一、田中 浩和
- 二、英語 高校Ⅱ年生(副担任)
- 三、テニス・ドライブ・映画鑑賞・中国語学習

四、本年度より高田学苑中・高等学校でお世話になっております。高校Ⅱ年生・中学Ⅰ年生の英語を担当させていただきます。

私はこれまで、陸上自衛隊の学校機関にて長らく教官職に携わり、この三月末で定年退官となり、ご縁もあり、お世話になっていらっしゃるです。生徒への教育という点では、これまでと同じ職務ながら、一般の学校かつ私立の学校という環境、そして女子生徒や中学生を教えるという初めての経験に戸惑いながらも、高田学苑でなくては、このような経験はできなかったであろうと感謝しながら、日々業務に携わっております。

私は、英語という教科を通して、広い視野を持つて欲しいとの思い

で、生徒の前に立っています。その思いを伝えつつも、高田学苑の生徒さんたちからも毎日刺激を受けています。切磋琢磨をする中で、共に成長していければと思っております。

学苑長、校長先生、学苑の皆様そして生徒の皆さん、改めましてよろしくお願いいたします。

一、加藤 智史

- 二、数学・進路指導部
- 三、ハンドボール・ジブリグッズ収集

四、今年度より高田学苑でお世話になっております。担当教科は数学です。私は「やらない善よりやる偽善」を座右の銘にしています。

この言葉はあまり良い意味で受け取られないことが多いですが、私は「他人からかっこつけだとか、偽善者などと思われても、自分がやっていることには意味がある。そして自分の信念に基づいて行動ができること」と自分なりの解釈をして捉えています。何かに迷い決めなくてはならないとき、信念を持つていることで一貫性のある決断ができると考えています。しかし、それは自分勝手な行動をす

ることとは全く違います。人の意見を柔軟に受け入れ、自分にうまく取り入れていく。その中で、芯がぶれないような指導ができる教員でいたいと思っております。

まだまだ至らぬ点多々ありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

一、飯村 竜一

- 二、生徒指導部
- 三、野球観戦・音楽鑑賞
- 四、本年度より高田学苑でお世話になっております。担当教科は社会学で、部活動は高校女子ソフトボール部の顧問を務めております。歴史と伝統あるこの高田学苑で教鞭を執ることができると誇りに思うと同時に、身が引き締まる思いであります。自分は小学校三年生から野球をしており、大学の四年間におきましては同窓会会長の伊藤清一監督にご指導いただいております。教員二年目でまだまだ未熟な点が多々ありますが、野球で培った忍耐力とガッツで日々精進していき、生徒の成長の一助を担うことができよう存在になりたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

一、奥山 重康

二、国語

三、茶道、音楽等結構多趣味なのですが、特にサイクリングは三種類の自転車を使い分けて楽しんでます。コロナ禍が収まれば、また大好きな琵琶湖や宍道湖等の湖畔ルートを存分に走りたいと思っております。

四、一昨年に続いてお世話になりました。恵まれた環境のもと、 motto とする「楽しい授業」を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。

一、山本 啓子

二、国語

三、読書・書道・短歌・吟行・ウォーキング

四、本年度より、非常勤講師としてお世話になっております。

開校百五十周年の記念すべき本年、歴史と伝統ある高田学苑に御縁をいただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

素晴らしい環境の中、礼儀正しく、積極的に快活な生徒の皆さんとともに充実した日々を過ごしております。

「言行忠信・表裏相応」の校訓を常に念頭に置き、健やかな成長と確かな学力、互いに学び合う姿勢の育成に微力ながら尽力したい

と思っております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

一、井上 年弘

二、国語

三、蕎麦打ち

四、公立高校での勤務に一区切りついたところで、この春より国語科非常勤として、中学・高校の教室に立たせていただいております。いつの時代でも未来を背負うのは子供たち、その生徒たちと高田学苑の教室で時間を共にすることに幸せを感じています。また、分からないことばかりのなか、教科や周りの教職員の皆さまに助けられ日々過ごすことができ、あらためて感謝する次第です。生徒の学び、成長に役に立つことができよう、地道に勤務していく所存ですのでよろしく申し上げます。

一、小保方 よしの

二、数学

三、音楽(合唱・フルート)

四、この度、高田学苑様とご縁をいただき高校Ⅰ年生の2つのクラスを担当させてもらっています。入学後の新鮮な生徒たちが毎時間ごとに新しい知識を吸収していく様子に日々元気をもらっています。

コロナ禍が加速してくれた教育現場でのICT利用、担当学年は

数学の問題集を紙媒体ではなくタブレットの中に所有しています。宿題の受け取り・提出もタブレットです。教師側の宿題の配信・回収のしかたがやっと思得できました。新しい時代の便利さをフルに生かし、古くからの不便だけどこほっこり伝わるものの良さも大切にしながら、日々の指導に当たりたいと願っております。

一、中川 徹嗣

二、社会科

三、家庭菜園・家事・旅行

四、四月より高田学苑で非常勤講師として勤務させていただくことになりました。東京と三重の高等学校・中学校・特別支援学校で社会科教員として約四十年間勤務してまいりました。着任して間もない

こともあり、なかなか慣れないところもあります。先生方に丁寧に教えていただき、大変感謝しております。生徒の皆さんには学習を通して、これまでの経験が少しでも役に立てられるような授業にできたらと思います。



- 一、小澤 亮二
- 二、高田学苑 女子サッカー部 総監督
- 三、ギター・料理・スポーツ全般 (スキー・柔道(二段)・剣道(初段)など)

四、今年度よりご縁を賜り、高田学苑女子サッカー部総監督としてお世話になります。高田短期大学・高田高等学校(女子)、またみえ高田FC、小学生を対象としたスクール事業などを総括させて頂く中、このような恵まれた環境で尽力できることに、その喜びはもろんのこと、何よりこのような機会を頂きました学苑長はじめ、学苑関係者の皆様から感謝申し上げます。

私自身、これまで保健体育教諭をはじめとして、約二十五年教鞭に立ち、学級運営はもちろん、学年主任や生徒指導主事、校務運営の一委員としての経験、その他、学寮主任や小学校での貴重な経験もしてまいりました。

私自身の現場は主にグラウンド。皆様とお目にかかる機会は限られるかと存じますが、いつでもお声がけ頂ければ、笑顔とオープンマインドだけが取り柄の私が対応させて頂きます。高田学苑の建学の精神の下、精一杯尽力してまいります。宜しくお願い致します。

短大

一、中嶋 麻衣

二、子ども学科

三、教材づくり、子どもの空手観戦

四、本年度より子ども学科助教として着任いたしました。「子ども家庭福祉」や「社会的養護の内容と方法」などの授業を担当するほか、施設実習の担当をしています。これまで、大学で社会福祉士の養成に携わった後、障害児通所支援事業所で勤務してまいりました。障害児通所支援事業所では、主に幼児から小学生までの子どもたち、その保護者の方とかわるなかで、人とのかわりの難しさを感じながらも、その大切さを改めて考えさせられてきました。学生のみならずには、子どもの発達や子育てに悩んだり、不安を感じたり、少し疲れたりした時に、話を受けとめ、一緒に考えることができる保育者を目指してほしいと願っております。力不足な部分も多々あるとは思いますが、一生懸命努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

- 一、河内 純子
- 二、子ども学科
- 三、自然散策

四、本年度より、子ども学科で世話になっております。特任講師で、「子どもと環境」「子育て支援」を担当させていただきます。

これまで、様々な働き方で子ども教育・保育に携わらせてもらってきました。そのような中、子どもを取り巻く環境の重要性や保護者や地域の方々とともに子育てをしていくことの意義について、深く考えさせられる場面がありました。

高田短期大学では、未来を生き抜く子どもたちを支える学生さんが、自ら課題を見出し、より良い未来を築いていけるよう、私なりに努めて参りたいと思っております。

まだまだ至らない点も多々ありますが、新たな環境で成長していただけるよう励んで参ります。これからどうぞよろしく願っています。

一、眞崎 俊明

二、キャリア支援センター

三、テニス(脊柱管狭窄症をサポート)

四、県立学校を定年退職し、セカン

ドキャリアとして、キャリア支援センター長としてのお仕事をいただきました。「高等学校の進路指導主任のような仕事」というイメージを持って着任しましたが、思えば、進路指導主任の経験もありませんし、勤務した学校はどちらかと言えば進路指導が中心の学校がほとんどだったので、これは大変なことになったと、一から勉強することばかりです。それでも、頼もしいスタッフに恵まれ、チームワークで学生の自己実現をお手伝いできるような頑張っています。キャリア支援センターの窓からは新緑も眩く、鳥の鳴き声に心癒されながら、素敵な環境の中で働けることに感謝しています。

一、中村 昭子

二、キャリア支援センター・キャリアアサポーター

三、茶道・旅行・映画鑑賞

四、本年度より、キャリアアサポーターに着任いたしました。

私は、高田短期大学を卒業後、四十年間公立幼稚園で幼児教育に携わり、充実した楽しい毎日をご過ごしてきました。未来ある学生の皆さんにも、幼児教育の楽しさを感じながら、自分が生き生きと輝けるような自分に合った職場に就職できればよいと願っています。



進路指導

高校進路指導部

そのためにも、学生の皆さんに寄り添い、頑張りを応援できるようなサポーターになりたいと思っています。

微力ながら、精一杯努めますので、よろしくお願ひします

一、亀山 裕美子

二、カウンセリング室

三、パン屋巡り、ジオパーク巡り

四、本年四月にカウンセラールとして着任いたしました。

カウンセリングは、「元々」相談「助言」を意味する言葉ですが、

馴染みがないと、こころの専門家による治療といったイメージから自分には関係ないものと思われがちです。

実際のカウンセリングは、ご相談にいられた方が、自分のことを話し、それをカウンセラールが受け止めることで、問題点が整理できたり、解決の糸口が見つかるなど、共同作業に近いものです。

「青年期」は、自我意識や社会意識が発達する非常に大切な時期ですから、カウンセラールに対して、気持ちや考えを吐き出していただき、ちょっとしたほっとしたり、整理してスッキリしたりするお手伝いができればと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和3年度入試進路状況(延べ数)

令和3年4月

Table with columns for 三年度制 (I類, II類), 六年度制, and 合計. Rows include 四年制大学, 国公立, 私立, 文部科学省所管外, 海, 短大, 国公立各種・専門学校, 私立各種・専門学校, 就職.

〈進路状況〉

令和3年度入試の全体・三年制・六年制の進路結果は、次の通りです。

高校1年生の2月より始まったコロナ禍の影響を大きく受け、校外宿泊学習(修学旅行)の中止をはじめとした、様々な教育活動の制限を強いられた学年でしたが、令和4年3月、三年制I類178名、II類207名の合計385名と、六年制179名、合わせて564名の生徒が無事卒業の日を迎えることができました。今春の卒業生と既卒者を含めた、入試結果及び就職決定先がまとまりましたので、ご報告します。

○三年制

主な大学進学先

- 大阪大学 1名
三重大学 6名
名古屋工業大学 1名
愛知教育大学 1名
広島大学 1名
静岡大学 1名
京都府立大学 2名
三重県立看護大学 2名
中央大学 2名
愛知大学 14名
中京大学 34名
南山大学 7名
名城大学 11名
皇学館大学 48名
鈴鹿医療科学大学 53名
同志社大学 3名
立命館大学 10名
高田短期大学 40名

○六年制

主な大学進学先

- 東京大学 8名(理科3類1名)
京都大学 11名(医学科1名)
大阪大学 5名
名古屋大学 12名(医学科2名)
北海道大学 2名
東北大学 2名
九州大学 3名
神戸大学 2名
三重大学 26名(医学科20名)
慶應義塾大学 12名
早稲田大学 21名
上智大学 15名
明治大学 22名
同志社大学 51名

過去5年間の合格者推移

Table with columns for 年度 (H29, H30, H31, R2, R3) and rows for 卒業生, 国公立大学, 私立大学, 短期大学, 各種・専門学校, 就職.

過去5年間の合格者推移

Table with columns for 年度 (H29, H30, R元, R2, R3) and rows for 卒業生, 国公立大学(全体), 国公立大学(現役), 私立大学, 医学部医学科(私立大学含).

昨年度は、コロナ禍において三度目の入試となりました。年度途中の秋頃には第5波の影響で、46年ぶりに三重県開催予定であった国体も中止となり、「昨年」に続いて、今年も生徒たちの入試に大きな影響が出るのでは」と心配されましたが、新型コロナウイルスの恐ろしさと身の守り方への理解がより深まった結果か、生徒たちは移動を恐れず、関東・関西圏をはじめとした幅広い地域に進路目標を定め、合格を勝ち取ってくれました。このような状況の中、昨年度入試のトピックスとして、三年制からは難関校である大阪大学へ、六年制からは2年連続で東京大学理科3類へと、それぞれ合格者を出せたことが挙げられます。



多くの不安を抱えながら進路決定の時期を迎える高3生・6年生に寄り添いながら、今後も親身な進路指導を行ってまいります。

中・高部活動

■中・高男子柔道部 令和四年度部員数

中学生 一年生 一名 計一名
高校生 Ⅲ年生 六名
Ⅱ年生 一名
Ⅰ年生 四名
四年生 二名 計十三名

最近の諸大会成績(上位入賞のみ)

第七十一回三重県高等学校 柔道新人大会

男子団体 二位
男子個人 三位
66kg級 Ⅱ年 永田 隼大

第七十一回三重県高等学校 柔道選手権大会

男子団体 三位

平素は、学苑をはじめ、卒業生の皆様、保護者の皆様よりご理解とご協力を賜り、誠に有りがとうございます。今年度は、新入生六名(含四年生・中学生)を迎え、新たな顔ぶれでスタートを切りました。

昨年度は、Ⅲ年生が引退し、新チーム七人ながらも、一月の新人大会において準優勝を果たすことができました。

今後、この勢いを保ちつつ、全が部員が学苑での生活で「文武両道」を成し遂げる「高田の柔道」を目指し、取り組んで参ります。今年度も、変わらぬご指導、ご声援を賜ります

よう、宜しくお願い申し上げます。

■中・高文芸部

文芸部は、高校文芸部員十五名と中学文芸部員七名とが一緒に活動しています。昨年度も多くの賞をいただきました。

○第四十五回全国高校総合文化祭和歌山大会(八月三日～五日)に、散文部門・詩部門・短歌部門・俳句部門の三重県代表として出場しました。

○第十一回牧水・短歌甲子園 学校対抗戦の部に出場することが決まりましたが、感染症蔓延により、大会一週間前に紙上審査となることとが決定し、ディベートを行うことができず、僅差でトーナメント戦に出場することができませんでした。しかし、岸本花梨さんの短歌が、笹公人審査員賞を受賞しました。

○第三十六回全国高校文芸コンクールでは、長崎桃子さんが詩部門で最優秀賞及び全国文芸専門部会長賞を受賞し、国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた表彰式において受賞のスピーチを行いました。また、長崎さんは随筆部門で優秀賞も受賞しました。前川奈央さんは、詩部門優良賞と短歌部門入選、網谷菜桜さんが短歌部門で優秀賞を受賞しました。

昨年度は対面での活動も行うことができ、全国の高校生と交流することもできました。今年も多くの大会に出場できるよう部員同士で切磋琢磨

磨していきます。

■中・高放送部

高田中・高等学校放送部は、中高合同で活動しています。令和三年度は、第六十八回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会において、ラジオドキュメント部門で第四位優良賞、テレビドキュメント部門で第五位入選、アナウンス部門で第五位入選、朗読部門で第五位入選、研究発表部門で研究奨励をいただきました。あと一歩のところまで決勝の舞台を逃しましたが、今後さらに技術を磨き練習と研究を重ね、決勝のNHKホールの舞台へ立ちたいと思います。

次に、第四十五回全国高等学校総合文化祭(和歌山大会)にアナウンス、朗読、ビデオメッセージの各部門で出場しました。コロナ禍の隙間をぬっての通常開催の大会で、久しぶりに部員一同で県外遠征をすることが出来ました。そこでは、オンラインでは味わえない緊張感や充実感を得ることが出来ました。そして、第七十六回国民体育大会「三重とこわか国体」の総合開会式の司会と、第二十一回全国障害者スポーツ大会「三重とこわか大会」のボウリング競技の映像配信事業を担当しました。また、第四十二回みえ高文祭では司会を担当し、会場を大いに盛り上げました。年末には、バナソニック主催のKWN日本コンテスト二〇二一年中学校の部で、校内での紙の節約をテーマとした映像作品を制作し、佳作となりました。さらに、短編映画制作のチャンスを提供する、若手映画作家応援プロジェクトである第四回フェローズフィルムフェスティバル学生部門に参加し、一次審査を通過し、東京での本選に出場しました。

新しい分野への挑戦であり、この成果を今後に繋げていきたいです。今年度も、取材や撮影に協力していただいた方々、樹心同窓会をはじめ諸先輩方や皆様のお陰で、大きな舞台で発表することができました。ありがとうございました。これからも、いろいろな分野で活躍していきます。皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

■中・高美術部

私たち美術部は、中学生十六人、高校生二十五人の計四十一人で活動しています。

昨年度は、中高合わせて十二人入部しました。

昨年同様コロナ禍の中での活動となりますが、私学展や学内展示、公募展への作品発表を目標に、みなそれぞれの目標に向けて頑張っています。

今年度は中学二年生を中心に共同大制作を制作する計画を立てています。また、絵画だけではなく、立体や工芸にも表現の幅を広げていきたいと考えています。

私学展は今年度も一月に行われる予定ですので、是非美術館に足を運んで頂けるとありがたいです。

■中・高箏曲部

箏曲部は現在、高校Ⅲ年生二名、Ⅱ年生十一名、Ⅰ年生六名、中学三年生二名、中学二年生十二名、中学一年生四名の計二十七名で活動しています。月曜日から金曜日の放課後に練習があり、水曜日と金曜日には外部指導者の尾田香代子先生に来ていただき、指導をしていただいています。今年度は気力あふれる男子部員も入部し、個々の演奏技術向上を

目指し、より一層練習に励みながら、全員で息を合わせた演奏ができるように、常に声を掛け合い、仲良く活動しています。

昨年度は、一昨年の県大会の結果より第四十五回全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文二〇二一年」に出場させていただきました。全国大会に出場するのは、現在のメンバーで初めてのことで、部員は不安や緊張、そして期待を抱きながら、毎日練習を重ねました。練習では、なかなか全員が揃って上手に演奏することができず、焦っている場面も多くなりました。しかし、部員同士による声の掛け合いと尾田先生の根気強い指導のおかげで、一番では心をついにした演奏を見せてくれました。その結果、総合成績A(上位八校を除いた上位二十五%)に選んでいただきました。この経験は、部員全員の自信になるとともに、全員が一丸となって団結する難しさや満足いく演奏ができた時の喜びを知る機会となりました。

今年度は五月に高田本山の開山親鸞聖人御生誕八五〇年奉賛法会カウントダウンイベントで演奏させていただきました。さらに八月に開催される三重県日本音楽演奏会に出場します。いい結果につながるような演奏を目指し、部員一同、力を合わせて、日々練習を積んでいきたいと思っております。今後とも末永く、ご支援いただきませう、よろしくお願いたします。

箏曲 部顧問一同

■中・高俳句部

俳句部は、中学生と高校生で一緒に俳句を作ったり、どうすればもつといい俳句にできるかワイワイ話し

合ったりしています。俳句の種となるものを見つける目的として、たまに吟行という課外活動を行い、知見を深めています。

全員が初心者からのスタートであり、手探りながらも、俳句に楽しく向き合っています。その中で私たちは俳句甲子園という大きな大会に出場します。

俳句甲子園とは、お互いに詠んだ句を批評し、より良いものを選びたいか自分たちの知識を精一杯に稼働させて討論する場です。コロナ禍で他校との対面での交流もできなかったため、未だ慣れないこともあり右往左往していますが、まずは地方大会を勝ち抜くという目標の下、頑張っていきたいと思っています。

■中・高クイズ研究会

高田中高クイズ研究会は、中学と高校の合同で日々練習に励んでいます。本年度から中学クイズ研究同好会が部になり、二十人もの新入部員が入部してくれました。新たな仲間がたくさん増えたことを本当に嬉しく思うとともに、これからの活躍が楽しみです。高校部十人、中学部三十三人で今年度も頑張っていきたいと思っています。

今年度で高校部は創部三年目、中学部は四年目と、まだまだ歴史の浅い部活です。そのような中で、昨年度は四度の全国大会出場を含む輝かしい実績を残すことができました。大会で同じ目標に向けて競い合った他の学校とは今でも交流があり、オンラインでの練習試合を行うなど、自分たちでもクイズをする場を作っています。また、大会の運営に参加し、貴重な体験をした部員もいます。これからも、クイズを楽しむ心を

忘れずに、さらなる飛躍に向けて部員一同頑張っていきたいと思っています。応援よろしく願っています。

高校部部长 濱田 奈那
中学部部长 久保 達夢

昨年度の実績

・AQL(全日本クイズリーグ)

二〇二東海リーグジュニアの部

優勝 全国大会出場

・AQL夏のセンバツ ミドルリーグ

優勝

・第四回ニユース・博識甲子園

(全国大会) ベスト8

・ニユース・博識甲子園

秋の新人戦(個人戦、全国大会)

準優勝、四位

・ニユース・博識甲子園 春の選抜大会(団体戦、全国大会)

準優勝

■中学軟式野球部

私達中学軟式野球部は、三年生十六人、二年生十人、一年生八人で活動しています。チーム目標は、一代前の先輩方が惜しくも達成できなかった県大会出場で、部員個人個人としては、部活動を通して仲間と協力することによって人間的に成長することを大切にしています。

部の活動は木曜日以外の平日で、週末には練習試合を行っています。

運動部なので活動時間も長く、多いですが、家に帰ったら自分が使った泥だらけのユニフォームは自分で洗うなど、親に成長した姿を見せ、応援してもらえるようにすることを心

掛けています。

また、私達高田中学野球部は、他校と比べて、野球初心者がとても多いです。しかし部員数がとても多く、にも恵まれており、中学から野球を始めた子がほとんどでも、勝てるようなチーム作りを代々の先輩方はされてきました。今年のチームは、市民大会、秋季大会、春季大会、全て初戦敗退と、結果を残せていませんが、三年生にとって最後の大会となる夏の中学生連では絶対に勝てるように、キャプテン副キャプテンを中心に、日々練習、練習試合を通して試行錯誤しています。

今、世の中はコロナ禍によって様々なことが制限されたり、中止されたりしています。我々野球部も、何度も部活停止になり、特に現三年生は、入部した頃からたくさんさんの影響を受けてきました。しかし部活停止中は、部員個人で家で素振りをするなど、できることはやってきました。

三年生は夏の中学生連で引退するので野球部に所属してられるのはあとわずかです。野球部を卒業したときに、技術だけでなく人としてたくさん成長でき、たくさんさんの思いを共にした仲間ができたと思えるように、悔いのないように全力で部活に励みたいと思っています。

310 草深 歩夢

■中学卓球部

私たち卓球部は、一年生十一人、二年生二十四人、三年生二十人に顧問の先生三人を加えた合計五十八人という大人数で毎日練習に励んでいます。昨年度新型コロナウイルス感

染症の拡大により日々の練習や数々の試合が中止となる中、団体の部で優勝するなど輝かしい成績を残しました。私は卓球部がここまで強く

なった理由は二つあると考えています。一つ目は練習の工夫です。私たちは部活と勉強を両立することを目標としています。そこでチームワークを生かして連携し、練習の準備や後片付けをスピーディーに終わらせることで、短時間で効率よく練習しています。二つ目は顧問の先生や家族による支えです。顧問の先生や家族による支えです。顧問の先生や家族による私たちの体調管理や試合の送迎など、目に見えない数多くの支えに対して感謝の気持ちを忘れずに活動していきたいと思います。

このように卓球部は技術の向上だけでなく感謝の気持ちを忘れずに活動しています。また部活を通して仲間と切磋琢磨する喜びや楽しさを学ぶことができます。これらの仲間の存在はかけがえのないもので、私はこの仲間と出会えたことを誇りに思っています。これからもこの最高の環境で、三重県大会でベスト4に入るとい夢に向かって挑戦し続けます。

部長 藤本 悠

■中学女子ソフトテニス部

今年度の中学女子ソフトテニス部は、一年生十人、二年生八人、三年生七人で活動しています。和気あいあいとしていて、とても団結力のあ

るチームです。新チームになって、昨年から今年にかけて行われた津市の団体戦で三度優勝することができました。それは私にとってもチームにとってもす

ごく貴重な経験になりました。個人でもたくさんさんの活躍があって、同じチーム内にそういう人達がいるということを大変誇りに思います。

また、これから部活動に取り組む中で私たちが目指すべきチームの形は礼儀や敬意、思いやりがあって周りから応援されるチームです。今、私たちはそういうチームでいられるように意識を持つことが出来ていると思います。さらに上を目指して、そのようなチームを私たち最高学年が率先して作りあげていきたいと思っています。そして、今のチームの形がこれからの高田のチームの形にも繋がっていくと考えて、しっかりと部活と向き合っていきたいです。また、残りわずかの部活動の時間、先輩と与えられる存在でいられたらいいなと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大の中、練習ができ、試合に参加することが出来るのは本当にたくさんの方々の支えがあったことです。そ

キャプテン 米川 綾乃

■中学陸上競技部

中学陸上競技部は、男子二十八名、女子三十三名の計六十一名で活動しております。本年度は一年生が二十二名加入しました。そのほとんどが陸上競技未経験者ですが、上級生の指導を受け、日々練習に励んでおります。

練習では、主に長距離と短距離に分かれ、各パート長が中心となりメ

ニューに取り組みようとしております。また、大会に臨むにあたっては、部員それぞれが具体的な目標を設定するようにしております。自己ベストの更新を目指すのか、参加標準記録の突破を目指すのかなど、大会ごとの位置づけを明確にすることにより、目標達成を意識し、部活動に励んでおります。

昨年度、長距離は、男子が津市中学校駅伝競走大会にて優勝し、三連覇を達成しました。女子は三重県中学校駅伝競走大会にて十八位と十四年ぶりの県駅伝十位台という好結果を収めました。短距離では、山口朔矢君が、通信陸上競技三重大会にて、共通男子200mにて第二位となり、東海大会に出場しました。

今後、中学陸上競技部の伝統を受け継ぎ、精進していく所存であり、樹心同窓会会員の皆様のご支援のほど、よろしくお願い致します。

■中学馬術部

中学馬術部は、四月に新入生六名を加え、三年生三名、二年生十名の計十九名で二〇二二年度の活動を開始しました。昨年度とは違い、コロナ禍前と同じスケジュールで新入生の入部期間を設けることができ、先輩として責任感を持った行動を早くから求められることになりました。三年生は人数が少ないですが、自分で考え、行動する姿が多く見られるようになってきており、成長を実感しているところ。また、二年生は先輩を指導する立場になりました。未だ接し方に戸惑っている姿も見られますが、少しずつ適切な距離感を掴み始めています。見受けられ、次の行動についてアドバイスをし

ている生徒も出てきております。顧問としても、馬の世話の仕方などで困っている後輩に手を差し伸べることや、自らの言動を振り返り、改善していくことで、後輩にとってよき手本となるように努力することを目指していきたくと考えております。

昨年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン授業期間や部活動停止期間などがあり、十分に練習時間を確保することができませんでした。また、唯一中学生のみで開催される大会である「全国中学校馬術交流戦」も、出場を辞退される学校もあり、三校戦という形で本校にて開催され、コロナ禍でも諦めずに練習を重ねてきた生徒達は、二競技で優勝という結果を勝ち取りました。一般の大会においても、「二〇二二みえ馬場馬術大会」、「二〇二二みえスポーツフェスティバル」、「二〇二二みえ馬場馬術大会」、「二〇二二新春三重県馬術大会」などに出場し、多数入賞を果たしています(一覧表参照)。日々の練習が結果として表れることで、生徒達も次の目標を立てる良い機会になります。一緒に活動している高校生から様々な刺激を受け取り、高いモチベーションを維持して練習に取り組んでいってほしいと思っております。

世の中では、新型コロナウイルス感染症に対する考え方が少しずつ変わってきており、行動制限も緩和されてきておりますが、今年度も馬術部の活動内容も大会の開催をはじめ、いつ制限が課されてもおかしくない状況には変わりありません。それぞれがコロナ禍当初の生活を忘れず、部活動を行えることのありがたさを噛み締めながら、日々の練習を大切に、心身共に成長して欲しいところ。その成長の軌跡

として、各大会での好成绩等をご報告できればと思っております。何卒、応援の程よろしくお願い致します。

【令和三年度 中学馬術部成績】

※旧学級での記載となります。

○みえスポーツフェスティバル二〇二二

(二〇二二年十一月十三日・十四日)

【一日目】

STARTER CLASS I
優勝 3-1b 河口 凜美
小障害飛越競技C-1
優勝 3-1b 河口 凜美
準優勝 3-1a 松村 凜
第三位 3-1a 濱地陽菜乃

【二日目】

小障害飛越競技C
優勝 3-1c 土肥 悠真
STARTER CLASS II
優勝 3-1b 河口 凜美
準優勝 3-1a 濱地陽菜乃
第三位 3-1c 芝 朔矢

○二〇二二 みえ馬場馬術大会

(二〇二二年十一月十二日・十三日)

【一日目】

馬場馬術競技L1科目
第三位 3-1c 土肥 悠真
馬場馬術競技A3科目
第三位 3-1a 濱地陽菜乃

【二日目】

馬場馬術競技L1科目
第二位 3-1c 土肥 悠真
馬場馬術競技A2科目
優勝 2-1b 長倉 万桜
準優勝 2-1c 山岡 旺雅

○二〇二二 新春三重県馬術大会

(二〇二三年一月十九日・二十日)

【一日目】

小障害飛越競技C
優勝 3-1c 土肥 悠真

【二日目】

小障害飛越競技C
優勝 3-1c 土肥 悠真

○二〇二二 慶應・甲南・高田中学校馬術交流戦

(二〇二三年三月二十日)

速歩部班競技
優勝 2-1b 西岡 弘稀
準優勝 1-1a 後藤 里緒
第三位 2-1a 大平 珠生

【一日目】

駆歩部班競技
優勝 3-1c 土肥 悠真
第三位 2-1b 長倉 万桜
準優勝 3-1b 河口 凜美
第三位 3-1e 吉川 綾音

○北勢スプリングホースショー

(二〇二三年三月二十六日・二十七日)

【一日目】

小障害B-1
第三位 3-1e 吉川 綾音

■中学バスケットボール部

中学バスケットボール部の活動について

現在、中学バスケットボール部では男子が二十六名、女子が二十四名の合計五十名で日々練習しています。ここ数年はコロナ禍の影響で特に冬の公式戦が開催できず、部員たちが日ごろの練習の成果を発揮する場が少なくなっていました。しかし、多くの方のご協力のおかげで、昨年度は日程を延期しながらも、大会を

実施していただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。男女ともに中学からバスケットボールを始めた初心者がほとんどですが、今のチームは毎日継続して練習に参加できている部員が多いため、チームとしての一体感や練習の充実度は増していると感じています。

男子においては、十一月に開催されたTSU-ANOTSUCUP、女子においては一月に行われた中勢大会が初勝利となりました。男子は四九対四一という接戦での勝利となり、今まで以上にプレッシャーのかかる試合展開でした。しかし、夏休みの基礎練習がしっかりと実を結び、この試合を経て一皮むけたと思っております。女子も男子と同様、四四対三九というスコアかつ最後の最後まで結果がどうなるかわからない試合でした。女子は夏から秋にかけてやってきた基本練習を試合でも出すことができ、自信につながった部員もいた一方で、緊張や重圧から思うような力が発揮できなかった人もいました。勝利という結果をただ喜ぶだけではなく、反省点を次に繋げていってほしいと思っております。

昨年度、一年間の公式戦を終えて感じたことは、保護者の観戦が徐々に増えていったことです。日ごろの練習だけでなく大会時の送迎等、コロナ禍によって保護者の皆様には多くのご協力をいただいております。子どもたちの頑張りをぜひ見てあげてほしいと顧問として強く感じるとともに、今後もバスケットボール部員たちの成長を近くから見守っていきたいと思っております。



■中学バレーボール部

現在、中学校女子バレーボール部は三年生八人、二年生十一人、一年生八人の計二十七人で活動しています。今年も一年生がたくさん入部してくれて、ますますチームが盛り上がっています。公式戦で勝つことを目標に、日々生徒達は切磋琢磨して練習に励んでいます。ほとんどが未経験者で、公式戦では苦戦していますが、全員で声を出して全力で攻め続ける高田のバレーボールで、強い相手にも諦めずに戦い続けています。

高校のバレーボールを題材とした人気スポーツ漫画「ハイキュー!!」の中に陽台高校という強豪校が出てきます。そのチームのスローガンは「習慣は第二の天性なり」です。この言葉の意味は、「日常的に繰り返すことで身についた習慣の力は大きく、生まれつきの性質と変わらないほど行動や生活に影響を及ぼす」ということだそうです。スポーツの世界では、体格や運動神経など持って生まれたものの差が最初は見えてしまふことが多く、「自分には向いていない」や「才能がない」などと感じて、諦めてしまう人も少なくないかもしれません。ですが、練習をこつこつ頑張り続け、努力が習慣化されると、できなかつたことも当たり前に行けるようになります。これが部活動の醍醐味であり、このような一朝一夕では獲得できない喜びを味わってほしいなと思います。また、このことはバレーボールだけでなく勉強や日常生活においても言えることです。バレーボールを通して、「今の繰り返しが一ヶ月後の自分、一年後の自分を作る」ということを経験し、生徒が高校、大学を卒業し、社会にでた際にも頑張り続ける糧にし

てもらえたら、指導者として嬉しく思います。最後にありますが、生徒達が部活動を思い切り楽しめる環境を作れるよう、顧問として全力を尽くして参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

■中学なぎなた部

現在、十五名で活動しています。昨年度まで各種大会がほぼ中止となり、二年間試合のない状態が続いていましたが、昨年の全国中学生大会には三年振りに出場することができました。初めての大きな試合がいきなり全国大会という特殊な状況でしたが、気圧されることなく戦えたと思います。今年度、無事開催された県選手権では、中止を挟んで二大会連続で知事杯を獲得し、今夏、津市産業スポーツセンターで行われる全国中学生大会への出場を決めました。ご当地開催の全国大会で良い結果が残せるようにさらなるレベルアップを全員一丸で目指したいと思っています。

個人・演技・団体の部出場
田中一葉・飯田凜
九鬼希美・藤田結莉

中学女子個人

優勝 樋口 碧(知事杯獲得)
3位 九鬼希美

※この結果、七月二十三日・二十四日に津市産業スポーツセンター(サオリナ)で開催される全国中学生なぎなた大会に女子個人の部で樋口碧選手が、演技の部で九鬼希美・藤田結莉・飯田凜・藤田結莉チームが出場権を獲得しました。

また、樋口選手は全国の選手を代表し、開会式で選手宣誓を行います。さらに、本校の南谷咲恵選手が三重県を代表し、全国の参加者へ歓迎の言葉をのべます。応援よろしくお願ひいたします。

顧問記

■中学サッカー部

こんにちは、中学サッカー部です。中学サッカー部にはスローガンが二つあります。一つ目は「賢く・鋭く・勇ましく」。二つ目は「印象・信頼・感謝」です。二つ設定している理由は「サッカーをしている時」と「サッカーをしない学校生活の時」の目標を作ろうという想いから誕生しました。部活動とは学校生活の一部です。そのため、サッカー部では「印象・信頼・感謝」という三つの言葉を意識して学校生活を送っています。

明るい挨拶、身だしなみ、姿勢、明るい表情、返事、ものの管理などによって自分に対する他人からの「印象」が変わります。そして、それがサッカー部全体の印象となります。サッカーは十一人で行う信頼のスポーツです。普段の行動から約束を守る、時間を守る、嘘をつかないこ

とで仲間や先生から「信頼」されるようになり、絆が生まれます。友達、先生、コーチ、対戦相手、審判、保護者、サッカー用具そしてサッカーのできる環境に「感謝」しなければなりません。感謝するということは、他のことに対して思いやりを持つことにも繋がります。このスローガンを大切に、サッカーというスポーツを楽しみながら良い結果を残していきたいです。

■高校軟式野球部

軟式野球部は現在、部員数十九名で活動しています。学年に関係なく皆仲が良く、活気にあふれた良い雰囲気、信頼しあえる仲間たちと切磋琢磨しながら練習に励んでいます。軟式野球部は、今年で創部から十二年目を迎えました。創部当初より「東海・全国で通じるチームをつくろう!」を合言葉に、頑張ってきました。創部から二年半かけて東海大会初出場を果たし、それから毎年東海大会に出場、東海大会ベスト4という結果を三度取めました。

昨夏、軟式野球部は第六十六回全国高等学校軟式野球選手権三重県大会で優勝、東海大会では2対0で負けてしまいました。全国大会優勝校の中京高校と接戦を繰り広げました。そして、三重とこわか国体の三重県代表校として選出されました。やっと念願の全国大会出場を叶えることができると、喜びで満ち溢れました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、国体は中止になってしまいました。

国体がなくなりましたこと、このような形で三年生が引退をむかえてしまうことが残念でしたがありませんでした。しかし、このチー

ムで一緒に過ごしてきた楽しい時間を思い出して、私たちは、また全国大会出場という目標に向けて頑張りたいと決心しました。先輩たちが築いてきた伝統を絶やさずついでいきます。

お今後とも軟式野球部への応援を、どうぞよろしくお願ひいたします。

■高校卓球部

令和四年度三重県高校総体卓球競技兼全国総体兼東海総体三重県予選が行われました。結果は次の通り。

【シングルス・ダブルスの部 中勢地区予選】

四月二十三日 津市久居体育館

- 男子シングルスは、Ⅲ3濱林春斗、Ⅱ1デッラスポレティナ輝、Ⅱ4平松諒也、ⅡC西岡海星、Ⅰ2橋爪一惺、Ⅰ2藤川航次が予選通過。
- 女子シングルスは、Ⅱ1達知凜奈、Ⅱ4山田こなつ、4d中川さら、ⅠA西村香澄、Ⅰ5井上明日咲、Ⅰ3石田有紀乃が予選通過。なお三重県ランキング上位により、Ⅲ3前出陸杜、ⅢC野口敬央、Ⅲ3鈴木渚帆、Ⅲ2薄井結葉、Ⅱ2岩本佳奈が地区予選免除での県大会出場となりました。
- 男子ダブルスは、Ⅲ3濱林春斗・Ⅰ2橋爪一惺組、Ⅱ1デッラスポレティナ輝・Ⅱ4平松諒也組、ⅡC西岡海星・Ⅰ2藤川航次組、Ⅱ4野崎文太・Ⅰ1垣本健児組が予選通過。
- 女子ダブルスは、ⅠA西村香澄・4d中川さら組、Ⅰ5井上明日咲・Ⅰ3石田有紀乃組、Ⅱ4山田こなつ・Ⅱ3小倉乃娃組が予選通過。なお三重県ランキング上位により、Ⅲ3前出陸杜・ⅢC野口敬央組、Ⅲ3鈴木木

渚帆・Ⅲ2薄井結葉組、Ⅱ2岩本佳奈・Ⅱ1達知凜奈組は地区予選免除での県大会出場となりました。

【ダブルスの部 三重県予選】

四月二十九日

三重交通Gスポーツの杜伊勢

男子ダブルスは、Ⅲ3前出陸社・ⅢC野口敬史組が第二位、女子ダブルスは、Ⅱ2岩本佳奈・Ⅱ1達知凜奈組が第三位でした。一位から二位が全国総体、一位から四位が東海総体の出場権を獲得しました。

【シングルの部 三重県予選】

五月三日・四日

三重交通Gスポーツの杜伊勢

男子シングルスは、Ⅲ3前出陸社が優勝、女子シングルスは、Ⅲ2薄井結葉が四位、Ⅱ1達知凜奈が第七位、Ⅱ2岩本佳奈が第八位でした。一位から四位は全国総体、一位から八位は東海総体の出場権を獲得しました。

東海総体は六月十八日から愛知県刈谷市にて、全国総体は七月二十九日から愛媛県宇和島市にて開催されます。

■高校ソフトテニス部

先日行われた県総体で3年生が引退し、現在、男子はⅡ年生10名、5年生2名、Ⅰ年生5名の計17名、女子はⅡ年生6名、Ⅰ年生8名、4年生1名の計15名で活動しております。技術の向上だけでなく、人間的に成長することを大切にして日々練習しています。

あいかわらず新型コロナウイルス感染症を気にしながらの大会が続き、

以前のように男女が一緒に声を出して応援し、チーム一丸となって戦うという雰囲気がつくれずにはいます。個人戦では初日敗退がつづき、思うような結果を出せておりません。そのような中で、新チームは東海大会出場という目標を掲げ、新たな気持ちでスタートしました。先輩方が残してくれた伝統を引き継ぎ、よりよいチーム作りに励みたいと思います。

現在私たちは第三体育館東側にあるオムニコート二面とクレイコート一面を使って練習しています。それ以外に、JR一身体駅近くのオムニコート二面を他の部活動と交代で使用しています。施設にも恵まれ、雨天でも練習ができるありがたい環境です。OB・OGの皆様、母校に立ち寄られる機会がありましたら、是非、コートまで足を運んでください。引き続き、応援よろしくお願いいたします。

■高校馬術部

高校馬術部は、四月に中学校からの継続四名を含む新入生七名を迎え、三年生五名、二年生一名と合わせ、計十三名で二〇二二年度の活動を開始しました。昨年度は、新型コロナウイルスの影響で中止になっていた大会が開催され、元通りの部活動が戻り始めている中、生徒たちは東海大会や全国大会、国民体育大会等において好成績を残せるよう、日々の練習に励んでいます。

また、昨年には国民体育大会が三重県で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、代替大会として「三重とこわか馬術競技大会」が開催される形となりました。以前より三重国体を最大目標に掲げ、練習を六年間

続けてきた今年三月に卒業した奥田・中尾両選手のことを思うと、残念な気持ちもありましたが、現三年生の吉永と共に、練習の成果を披露する場を持つことができ、良い締めくくりになったように思います。大会に関わって頂いた、全ての関係者の方への感謝の思いで一杯です。

その他の大会においても、全日本高等学校馬術選手権大会（個人戦）での吉永の第四位入賞や全日本高校生自馬選手権大会の団体六連覇をはじめ、六月の東海予選では団体優勝・奥田が選手権優勝、十一月の王座決定戦では奥田・吉永で団体優勝、新人戦では田中・渡邊（共に現Ⅲ年）で団体準優勝、その他一般の大会でも多数入賞と、好成績を数多く収めることができました。このような良い成績を収めることができたのは、生徒たちがコロナ禍においても毎日継続して努力し、馬たちと向き合ってきたからだと思えます。昨年度の経験を糧として、今年度も六月の東海予選、七月・八月の全国大会、九月・十月の国民体育大会、十一月の自馬選手権大会へと、繋げていくことが重要です。そのため、一日一日を大切に、悔いの残らないよう、全力で取り組んでいってほしいと思っております。

日頃より馬術部OBの皆様方には多大なご支援を頂きまして、部員・顧問一同大変感謝しております。この原稿を執筆している現在、社会での新型コロナウイルスに対する考え方も変化してきており、経済活動や行動制限の緩和が進められています。今年度の活動及び大会の実施に、いつ制限が課されてもおかしくない状況にあることに変わりはありません。日々の練習・生活が当たり前の

ものではないということを忘れず、感謝の気持ちを持って、馬術部の目標である「日本一の馬術チーム」を目指してもらいたいです。その軌跡として、各大会での成績をご報告できればと思っております。今後とも応援の程よろしく願います。

【令和三年度 高校馬術部成績】

※旧学級での記載となります。

○令和三年度三重県高等学校

総合体育大会馬術競技

(二〇二二年五月三十日)

障害飛越競技(中障害D)

男子 優勝 Ⅲ-3 赤塚 聖

女子 優勝 Ⅱ-4 吉永真由子 準優勝 6-1a 奥田 記枝

JEF馬場馬術競技 L1課目

男子 優勝 Ⅱ-5 渡邊 京祐

女子 優勝 6-1a 中尾 真子 準優勝 Ⅲ-D 伊藤 美咲

団体総合(男子) 優勝 Ⅲ-3 赤塚 聖 Ⅱ-5 渡邊 京祐

団体総合(女子) 優勝 6-1a 奥田 記枝 6-1a 中尾 真子 Ⅲ-D 伊藤 美咲 Ⅱ-4 吉永真由子

○第三十二回日本高等学校

馬術選手権大会 (二〇二二年八月十一日・十二日)

第四位 Ⅱ-4 吉永真由子

*第三十三回選手権大会への出場権獲得及び日本乗馬少年団連盟・JRA競馬学校との対抗競技会の高馬連代表選手に選抜

出場 6-1a 奥田 記枝

○第五十五回全日本高等学校

馬術競技大会東海地区予選 (二〇二二年六月二十日)

優勝(全国大会出場) 6-1a 奥田 記枝

6-1a 中尾 真子 Ⅲ-3 赤塚 聖 Ⅲ-D 伊藤 美咲 Ⅱ-4 吉永真由子

○第三十二回日本高等学校 馬術選手権大会東海地区予選 (二〇二二年六月二十日) 優勝(全国大会出場) 6-1a 奥田 記枝 第四位(全国大会出場) Ⅱ-4 吉永真由子

○第五十五回全日本高等学校 馬術競技大会 (二〇二二年七月十九日~二十一日) 出場 6-1a 奥田 記枝 6-1a 中尾 真子 Ⅲ-3 赤塚 聖 Ⅲ-D 伊藤 美咲 Ⅱ-4 吉永真由子 Ⅱ-5 渡邊 京祐

○令和三年度東海高等学校 馬術競技新人戦 (二〇二二年十一月七日) 馬場馬術競技 個人 準優勝 Ⅱ-1A 田中 萌 優勝 Ⅱ-1A 田中 萌 団体 準優勝 Ⅱ-1A 田中 萌 優勝 Ⅱ-5 渡邊 京祐

○令和三年度東海高等学校

馬術王座決定戦
(二〇二二年十一月七日)
馬場馬術競技
個人
優勝 6-1a 奥田 記枝
障害飛越競技
個人
優勝 2-1 吉永真由子
団体
優勝 6-1a 奥田 記枝
2-1 吉永真由子

○二〇二二 みえ馬場馬術大会

(二〇二二年十一月十一日・十二日)
F E I ジュニアライダー
馬場馬術科目
優勝 2-1 吉永真由子
準優勝 6-1a 奥田 記枝
馬場馬術競技 A 3 科目
優勝 2-1 奥田 記枝
準優勝 1-1 奥田 記枝
2-1 吉永真由子

団体総合

優勝 6-1a 奥田 記枝
2-1 吉永真由子
○二〇二二 新春三重県馬術大会
(二〇二三年一月二十九日・三十日)
障害飛越競技 D
優勝 2-1 吉永真由子

○三重とこわか馬術競技大会

(国体代替大会)
少年 馬場馬術競技
第四位 6-1a 中尾 真子
標準障害飛越競技
第六位 2-1 吉永真由子
少年 スピードアンドハンドデインス
第五位 2-1 吉永真由子
少年 自由演技馬場馬術競技
第三位 6-1a 中尾 真子
少年 タービー競技
第四位 6-1a 奥田 記枝
二段階障害飛越競技
第七位 6-1a 奥田 記枝

○JHC COMPETITION 2022

(二〇二二年十一月五日)
令和三年度 全日本高等学校
馬術連盟・日本乗馬少年団連盟・
J R A 競馬学校対抗競技会
団体
優勝 2-1 吉永真由子
準優勝 2-1 奥田 記枝
2-1 吉永真由子

○みえスポーツフェスティバル 2022

(二〇二二年十一月十三日・十四日)
STARTER CLASS I
第二位 2-1 若林 美里
第三位 1-1 岡庭 悠真
小障害飛越競技 B
第三位 3-3 赤塚 聖
中障害飛越競技 D
第三位 2-1 吉永真由子

○第六回全日本高校生自馬選手権大会

(二〇二二年十一月十七日・十九日)
馬場馬術競技 A 3 科目
優勝 3-3 赤塚 聖
準優勝 1-1 岡庭 悠真
馬場馬術競技 L 1 科目
優勝 6-1a 奥田 記枝
第四位 2-1 吉永真由子
障害飛越競技小障害 90cm クラス
第五位 3-3 赤塚 聖
障害飛越競技中障害 110cm クラス
優勝 6-1a 奥田 記枝
第四位 2-1 吉永真由子
障害飛越選手権競技
優勝 2-1 吉永真由子
準優勝 6-1a 奥田 記枝

○北勢スプリングホースショー

(二〇二三年三月二十六日・二十七日)
パーティカル I
優勝 2-1 奥田 記枝
第二位 1-1 岡庭 悠真
中障害 C-1 (公認)
第六位 2-1 吉永真由子
パーティカル II
優勝 2-1 奥田 記枝
第二位 1-1 岡庭 悠真
第三位 2-1 加藤 結衣
スポーツ日大カップ
第四位 2-1 吉永真由子

STARTER CLASS II
第二位 2-1 若林 美里
第三位 2-1 奥田 記枝
小障害飛越競技 C-1 II
優勝 2-1 若林 美里
小障害飛越競技 A
優勝 6-1a 奥田 記枝
中障害飛越競技 D
第三位 2-1 吉永真由子

馬場馬術選手権競技
準優勝 2-1 吉永真由子
第三位 6-1a 奥田 記枝



■高校バスケットボール部

四月の終わりから、二年生五人、一年生十六人の新チームで活動を始めた高校男子バスケットボール部です。先輩方が成し遂げられなかった県大会出場を目標に、日々練習に励んでいます。しかし、僕たちの個々の技術や身体能力は、他の高校に比べて特秀秀でている訳ではありません。そのため、チーム全体でプレーをすることが非常に重要になってきます。一人では攻めきれないので、それに合わせた動きをしてコートを広く使うようにする。一人では守りきれないので、すぐさまヘルプに出て相手のドライブを止める。このように、数的有利な状況を意図的に生み出し、戦力差をカバーする。これが、現段階で僕達を目指すチーム像です。

■高校ハンドボール部

令和四年度、新入生も加入し、男子二十六名、女子十七名の合計四十三名で活動しています。この時期、いつもハンドボールコートが小さく感じます。さて、昨年度の戦績ですが、十一月に新人ハンドボール選手権大会が行われ、男女ともに予選リーグを2位で通過し、決勝トーナメントに残ることができました。決勝の1試合目で、女子は暁高校と対戦し、点差をつけられて敗退しました。また男子は、稲生高校と対戦して惜しくも敗退しました。どちらも高田高校ハンドボール部らしく、最後まで攻める気持ちを前面に出して戦うことができました。

当然のことですが、練習でできていないことが本番でできる筈がありません。番狂わせの起こりにくいバスケットなら尚更です。そのため、普段の練習から、この場面で周りはどう動くか、それに合わせてどうするのが最善であるのかを考え続けなければなりません。僕の友人は、練習中に時々「もつと頭を使っただけ」と言います。言われると腹が立つのですが、同時にどきりとした気持ちになります。全員が視野を広く持つて、チームのために自分が何をすべきか考えて行動する。この一年で成し遂げられたらいいなと思います。

十二月には、選抜大会三重県予選会が開催され、男子は四日市西高校と対戦しました。前半に点差をつけられて、後半追い上げていきました。が、残念ながら敗退しました。女子は、四日市高校と対戦し、試合の内容は悪くありませんでしたが、シュートが決まらず苦しみました。結果、勝つことができずに男女ともに一回戦敗退となりました。

【何事にも全力で】これが先日の話し合いで決まった、今年のチーム目標です。非常に重い言葉ではありますが、バスケットを楽しむ、試合に勝ちたいという思いは全員の共通項です。「言行忠信 表裏相応」という高田高校の校訓に恥じぬよう、

三月に開催された交流大会については、コロナ禍で参加ができず、あとは五月末の県総体が最後の大会となります。この三年生は入学の時点からコロナ禍で、色々と大変な中で部活動を続けてきた仲間です。ここまで頑張ってきたからこそ、皆様に良い報告ができるように精一杯戦います。

今年度、新しく顧問に加藤智史先生を迎えました。公立の高校でもハ

今年度、新しく顧問に加藤智史先生を迎えました。公立の高校でもハ

ハンドボール部顧問を経験されており、ハンドボール愛好家です。皆さんがこれまで守ってきたくださったハンドボール部を、これからもより向上心を持って素晴らしい部活動になるように精進して参ります。

もしお時間ございましたら、是非ハンドボールコートに足を運んでください。皆様の応援が活力となります。

■高校サッカー

顧問 若林 広繁

高田高校男子サッカー部は、今年度で創部二十九年目を迎えることになりました。先日の県総体予選にて稲生高校に敗戦し、三年生十四名が引退しました。現在、二年生二十三名、一年生二十七名の計五十名で活動しています。新チームは、文武両道を掲げ、勉学に励みながら、勝負にこだわっていきけるよう再出発しています。チームの目標である「不撓不屈」のモットーを大切に、強豪校に打ち勝てるようなチーム作りを目指して日々練習に励んでいます。昨年度、男子サッカー部は三重県サッカーリーグ三部リーグを残留しました。昨年度の悔しさを糧に、今年度の部員達もまずは「二部リーグ昇格」を目標にしています。現部員達は先輩たちの残してくれた伝統を大切に受け継ぎながら、新たな記録を築き上げるため、チーム一丸となり、練習に励んでいます。今後、今まで以上に好成績を残していけるよう指導に励んでいきたいと感じています。また、女子サッカー部は三年生八名、二年生八名、一年生五名の計二十一名で活動しています。昨年度の三重県高校総体では連覇を狙う神村学園に勝利し、創部五年目にして初優勝

を飾ることができました。惜しくも東海総体では敗れ、全国総体に出場することはできませんでしたが、現女子サッカー日本代表コーチである宮本ともみ監督の下、高田FC一期生の選手たちが中心になって活躍し、一昨年に行われた第四十二回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会三重県予選の優勝に続き、三重県内のタイトルを獲得することができました。今年度からは東海リーグに参入し、全国の強豪チームと多くの試合経験を積んでいます。

本学サッカー部は、誰からも応援されるチームになるため、チームの一員として何事も全力で勝ちにいく闘う姿勢、他者を思いやり感謝する気持ち、そして生涯サッカーを愛し続ける気持ちを大切にしながら、「全員サッカー」を発揮できるチーム作りを目指しています。高田高校の一員としての誇りを持ち、いっそうの努力を忘れず、部員、指導者共々日々精進していきますので、今後ともご支援ご声援の程よろしくお願ひします。

■高校なぎなた部

現在十三名で活動しています。昨年は東海総体で二連覇を達成し、年度末の全国選抜大会で団体五位入賞を果たすなど、充実した一年となりました。とこわか団体に出場予定であった赤塚選手も選抜で個人ベスト十六と復調済み。さらに赤塚選手の力を借りずに入賞を果たした選手達の成長も加え、万全の状態で臨んだ本年度の緒戦・県総体でしたが、インハイの団体出場権を取れず、悔しい思いをしました。しかし、東海総体の出場枠は確保しており、三連覇高校にリベンジを果たせるよう、全

力を尽くしたいと思えます。今の合言葉は、「勝つてこのチームを締めくくる」です。

また、赤塚選手はインターハイに連続出場を果たしました。今年こそは表彰台に上られるよう、頑張ります。

顧問記

【主な戦績】

・令和三年度東海高等学校

総合体育大会 (令和三年六月 津市)

女子個人

3位 赤塚未悠

団体

優勝 川村璃乎・橘 奏海

赤塚未悠・杉森彩葉

小菅桃奈・山村愛奈

竹尾珠希

・令和三年度全国高等学校

総合体育大会 (令和三年八月 石川県)

個人の部出場 赤塚未悠

・令和三年度三重県高等学校

新人なぎなた大会 (令和三年十月 高田高校)

女子個人試合の部

優勝 赤塚未悠(選抜大会出場)

三位 小菅桃奈

団体

二位 (ブロック枠決定戦出場)

・令和三年度全国選抜大会

東海ブロック枠決定戦 (令和四年一月 浜松市立高校)

団体

優勝 杉森彩葉・小菅桃奈

山村愛奈

・第三十回全国高等学校

なぎなた選抜大会 (令和四年三月 伊丹市)

女子個人

ベスト16

団体

五位 杉森彩葉・小菅桃奈

山村愛奈

・令和四年度三重県高等学校

総合体育大会 (令和四年五月 皇学館高校)

女子個人試合の部

優勝 赤塚未悠

(東海総体・全国総体出場)

五位 小菅桃奈

七位 山村愛奈

八位 橘奏 海(東海総体出場)

団体

二位 (東海総体出場)

■高校新体操部

新体操部です。本年度も部員一同、部活と勉強の両立を目指し、日々練習に励んでいます。高校から新体操を始める部員が多い中、今年度は全国大会出場経験のある部員を迎えることになりました。昨年度から指導者に加わった、堀先生によるトップクラスの指導の下、インターハイでの上位入賞を目指し、練習に打ち込んでいます。今年度のインターハイは、香川県で開催される予定となっています。最後にありますが、新体操部OBの皆様の心暖かな応援ありがとうございます。今後も、各種大会において、審判等をお願いをさせていただきます。また、お時間がありましたら、第三体育館の常設フロアや大会を見に来ていただきたいと思っています。

今年度は、七月に開催される個人大会に向けて日々練習に励んでいます。今までのコロナ禍による非日常が少しずつ平常に戻りつつあるようなので、今まで経験できずにいた活動が少しでも多くできるよう期待しています。引き続き、新体制で頑張っています。

■高校バトン部

私たちは、I・四年生二十三名、II・五年生は十六名、III年生は十四名の計五十三名で活動しています。主に、バトントワリングの団体大会、個人大会、そして文化祭などの行事で演技を披露しています。

昨年は、コロナ禍のため、野球応援ができなかったり、大会が会場に行けずにビデオ審査になったりなど例年とは異なる場面もありましたが、団体大会や文化祭を通してメンバーの絆をより深めることが出来ました。文化祭では部員全員で掲げた「自分たちだけで楽しむのではなく、見て下さっている先生方、生徒さんたちにも楽しんでもらう。」という目標に向かい、部員同士でアドバイスをしあったり、励まし合ったりして完成した演技を披露することができ、とても嬉しかったです。先生方、生徒さんたちからも「すごく良かったよ。」などの声をいただき、さらに頑張ろうという気持ちが強くなりました。部員一同、忘れられない舞台となりました。

■高校天文部

高校天文部は、科学部地学班(中学校)と合同で、三号館4Fのプラネタリウムで毎週三日程度活動しています。活動内容は、プラネタリウムを用いた天体・星座の学習や、校舎内にある天体ドームでの月・星の

観察です。また、プラネタリウム解説のシナリオを作成し、校内や文化祭で発表したりしています。本校のプラネタリウムは、一九七一年に体育館に設置されたものを、現在の校舎に移築したもので、当時の機器が現役で五十年以上も稼働しており、現在もメンテナンスを繰り返しながら大切に利用しています。

二〇一八年・二〇一九年には松阪にある「みえこどもの城」のスタッフの方々の協力をいただきながら本校のみで公演を行いました。プラネタリウムの星空にイラストや画像を加えたシナリオを作成してそれを公開する形の公演で、一般の方や本校OBにも参加いただき、部員にとっても大変貴重な経験となりました。

現在は、新型コロナウイルスの影響もあって、休止の状態が続いています。毎年行っていた校内や文化祭の発表も、現在できない状態なので早くこの状況が変わり、新たな活動に向けて頑張っていきたいと思っています。

今後とも少しでも活動の幅を広げられるようにいろいろと模索していくので、ご支援をよろしくお願いいたします。

■高校書道部

本年度は、男子四名、女子十九名の計二十三名でスタートしました。新入生も九名を迎え、県内でも上位の部員数を誇ります。

普段の活動は、展覧会に向けた作品制作や文化祭での書道パフォーマンス練習です。作品制作では、半紙サイズの小さな紙から二メートル以上の大きな紙にも揮毫します。活動日には、真剣に作品に向き合う部員の姿を見ることが出来ます。昨年は、第三十回国際高校生選抜

書展(書の甲子園)にて十一名が入賞・入選し、団体の部で東海地区準優勝(県内では一位)に輝きました。本校としては過去最高の成績です。数年前では夢にも思わなかった成績ですので非常に嬉しく感じています。今年には更に上、地区優勝を目指し精進していきます。また、昨年の書道部門生徒・教員展では二名が「特選」を受賞し、本年度の近畿高等学校総合文化祭に三重県代表として出品することが決定しています。

書道の魅力は本当に奥が深く、たとえただけ学んだとしても尽きるものではありません。その魅力を今後は多くの人に伝えていけるように頑張っていきたいと思っています。最後になりましたが、部員、指導者ともに日々努力を重ねていきますので応援のほど宜しくお願い致します。

■高校演劇部

昨年度も、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年になりました。すべての上演に何らかの制限がかかり、手洗い、消毒はもろろんのこと、基本的にはマスクをつけての上演を余儀なくされました。顔が見えない、ということでは演劇では致命的で、その中でどう表現を工夫するかに心を砕きました。さらには、一般客は親に來られない、観客を家族や教職員に限っての上演が続きました。

そんな中でも生徒たちはよく努力しまして、「あたしスミ子」という作品で七月に行われた地区大会を突破、八月に行われた県大会でも優秀賞を受賞し、十一月に滋賀県で行われた近畿高等学校総合文化祭に出場しました。昨年度WEB開催になった近畿高等学校総合文化祭であった

ので、今年もそのような措置や無観客での上演もあるかな、と思っていたのですが、上演日は平日であったにもかかわらず、滋賀県や大会参加校など、多くの観劇をいただきました。まことにありがとうございました。また、春大会で「トライミライ」という作品を上演し、金賞をいただきました。この公演に限り、先輩や友人にもご覧いただくことができ、本当に嬉しかったです。その一方で、文化祭公演、冬公演は実施ができませんでした。できた公演がある一方で、できなかった公演もあります。本年度は七月三十日(土)三十一日(日)に白山しらさぎホールで地区大会、九月二十三日(金/祝)二十四日(土)に三重県総合文化センター 中ホールで県大会です。気兼ねなく観客の皆様が劇場に足を運びただけの日々が戻ることを願っていますが、それはまだ先のことなのでしようか。

■高校仏青インターアクト部

「私たちにできること」

Ⅲ年2組 田中 愛美

私たち仏青インターアクト部は、三年生二十二名、二年生十六名、一年生二十一名の計五十九人で活動しています。活動内容は、一身田寺内町での清掃や、校内やJR 一身田駅での美化活動として花を育てている他、仏教行事の準備や片付けを行っています。昨年度は、フードロス削減のため「フードバンク愛知」様のご協力の元、賞味期限が近づいている龍角散のど飴や、カルピスウォーターを学内及び津市内の教育施設に配布させて頂きました。また夏には「白塚の浜を愛する会」の方々と協

力し、白塚浜の海岸清掃に参加させていただきました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で九月に休校となりましたが、ボランティアを行う部活に入っている以上、何か出来ることがあるのではないかと思います。休校期間中に部員が家でできる葉作りを行うことにしました。葉は新型コロナウイルス感染症の影響で外に出て遊ぶことを制限されている学童施設の児童に届けさせて頂きました。学童施設訪問時には、先生方や児童から笑顔で感謝の言葉をかけて頂き、とても嬉しく思いました。ボランティア活動が制限されていたとしても自分たちができることを探し、社会に貢献できるようにこれからも活動を続けていきたいです。また、相手への感謝を忘れずに周りの人を少しでも笑顔に、また私達も笑顔で活動できるように日々活動に取り組んでいきたいと考えています。

■高校将棋部

高田高校は、五月三日に行われた第五十八回全国高等学校将棋選手権大会三重県予選において、男子個人の部において準優勝を果たし、八月三日から東京都で行われる全国大会に出場することが決まりました。全国大会に出場する生徒は全国大会で入賞することを目標に日々の練習に取り組んでいます。

将棋部の活動は、放課後二時間程度の練習を行っています。男子部員は有段者が多く、試合で勝つことを目標に切磋琢磨しています。女子部員は将棋の基本から学んでいます。今年度は新入部員も多く入部し、楽しく部活動に取り組んでいます。男子も女子も全国大会への出場を目指

し日々の練習に励んでいます。将棋部は多くの新入生を迎え、生徒、指導者共々精進していきますので、将棋部の活動を応援していただきますようお願いいたします。

■高校囲碁同好会

高田高校は、四月三十日、五月一日に行われた第四十六回全国高校囲碁選手権大会三重大会において、男子団体の部、女子団体の部でそれぞれ優勝をしました。優勝したメンバーの男子三名、女子三名は八月三日から東京都で行われる全国大会に出場することが決まりました。また、個人戦で入賞した生徒は、八月一日から東京都で行われる全国大会に出場することが決まりました。全国大会に出場する生徒は全国大会で入賞することを目標に日々の練習に取り組んでいます。

囲碁同好会の活動は、放課後二時間程度の練習を行っています。男子部員は有段者が多く、全国大会入賞を目指し練習に励んでいます。女子部員は有段者からの指導を受けながら基本から学んでいます。今年度は部員も多く、楽しく部活動を行い、次の大会での入賞を目指し練習に取り組んでいます。

■高校クリケット愛好会

私たちクリケット愛好会は「自由に楽しく」をモットーに明るい雰囲気で行っています。クリケットは世界で二番目に競技人口が多い人気のスポーツで、イギ

国際交流委員会

オーストラリア交換留学

藤山真澄

リスでは国技として知られていま
す。しかし、日本では認知度が低く
競技人口も多くありません。そのた
め、競技用の道具や様々な情報を入
手するのが難しい時があり、練習メ
ニューも自分たちで考える必要があ
ります。試行錯誤をしながらなるべ
く試合を想定した練習となるように
考え、時には外国語で書かれている
ウェブサイトをYouTubeを参考に
しながら効率的な練習メニューを考
えています。試合では、クリケット
は相手の戦法に合わせて自分たちの
守備位置や攻め方を変えなければな
りません。そのため、チームのメン
バー同士の積極的なコミュニケーション
が鍵となります。そのため、
普段の練習からお互いのことを気
かけ、声をかけ合いながら練習する
よう心がけています。毎年夏には静
岡と大阪で全国大会が開催されます。
大会で力を発揮できるようにメン
バー同士のコミュニケーションを密
にして、日々練習に励んでいます。
また、クリケットは友情に厚く、
私たちを世界とつなげてくれるス
ポーツでもあります。試合が終わっ
た後には他のチームと交流して、私
たちが今まで知らなかった知識を教
えてもらったり、共に練習したりす
ることもあります。また、外国の選
手も多いためお互いの文化について
英語を話す機会もあります。スポー
ツとしての側面はもちろんです、と
異文化交流としての側面もあり、と
ても魅力あるスポーツだと思います。
今年度は新たに十一人の後輩が入
会してくれました。クリケットとい
うスポーツの魅力や楽しさを伝え、
お互いに学び合い、一丸となって活
動に取り組んでいきたいと思いま

短大だより

令和三年度の進路状況について

キャリア支援センター

樹心同窓会の皆さまには、平素よ
り学生の就職活動にご理解、ご協力
を賜り、誠にありがとうございます。
令和三年度は新型コロナウイルスの
影響で各大学の就職内定率が低下す
る中、本学の就職状況が良好であつ
たのも同窓生の皆さまのご支援のお
蔭と深く感謝いたしております。
さて、令和三年度卒業生の三月末現
在の進路状況についてご報告します。

全体の状況は、卒業生220名
(昨年度208名) に対して、就職
希望者207名(同202名)、就職
決定者205名(同201名)、
未内定者2名(同1名)となり、就
職率は99・0%(同99・5%)とい
う結果でした。なお、進学者は2名
(同なし)、家事等従事者は9名(同
6名)でした。また、県外への就職
が6名(同4名)と微増し、県内就
職率は97・1%(同98・0%)とな
りました。

次に学科別の状況についてご説明
します。

◇子ども学科

卒業生128名(昨年度118名)
のうち、幼稚園に6名(同11名)、
保育園に66名(同69名)、認定こ
ども園に30名(同19名)、児童養護施
設等に6名(同11名)、社会福祉施
設等に3名(同1名)、公務員(事

務)を含む一般企業等に7名(同2
名)がそれぞれ就職しました。進学
は1名(同なし)、家事等8名(同4
名)、未内定1名(同1名)で、就職
率は99・2%(同99・1%)でした。
専門職としての就職者も全体の
94・1%(同98・2%)と高率です。

また、市町公務員試験では13名(同
19名)が保育士・幼稚園教諭職に合
格し、10名(同4名)が会計年度任
用職員として就職しました。今年度
は、公務員の募集が減少している中、
健闘したと言えます。また、認定こ
ども園に移行する園が増加している
ことから、幼稚園への就職者が減少
し、認定こども園への就職者が増加
する傾向が見られます。

◇キャリア育成学科

オフィスワークコース

卒業生数は68名(同60名)で、医
療・福祉19名(同19名)、卸・小売
業16名(同17名)、金融・保険6名
(同8名)、製造5名(同2名)、運
輸・情報通信5名(同2名)、建設
4名(同4名)、不動産・物品賃貸
2名(同1名)等、計62名(同60
名)が一般企業に、1名が老人介護
施設(同なし)に就職しました。ま
た、家事等1名(同なし)、進学1
名(同なし)、未内定1名(同なし)
で、就職率98・4%(同100%)
でした。

◇キャリア育成学科介護福祉コース

卒業生24名(同30名)のうち、老
人介護施設に21名(同26名)が、障
がい者施設に2名(同なし)が、一
般企業等に1名(同2名)が就職

しました。家事等はなく(同2名)、
進学、未内定は、ともに昨年度同様
ありませんでした。なお、卒業生の
うち、外国人留学生は21名(17名)
でした。

全体の求人状況については、本年
度、保育所・幼稚園・児童養護施設
から1,054人(同1,119人)、
一般企業から566人(同587
人)、老人介護施設から201人(同
346人)の求人がありました。総
数としてはやや減少しているものの、
依然として保育関連、企業、社会福
祉施設とも売り手市場の状況は変
わっていません。

おわりに、社会に出た後輩たちを
暖かく見守り、厳しくご指導賜りま
すようお願い申し上げます。キャリア支
援センターからの報告といたします。

◆短大部会だより◆

北端 一子

退職してから三年目に、大正琴の
サークルに誘われ、入会しました。
二〜三カ月が過ぎたころ、サークル
と関係なく、ボランティアで介護施
設への慰問の話がありました。大正
琴と一緒に歌ってくれる人を探して
いるとのことでした。大正琴は、ま
だうまく出来ないけど、童謡の歌な
ら歌えると思っただけで、今では、
全員が大正琴を弾いています。歌詞
を見ながら歌ってくれます。おじさん
やおばあさん。みなさん、とても歌
が上手です。「この歌、大好きやわ」
「歌うことは、難しいけど、若い時

視全国大会入賞

在校生

奇跡は始まったばかり

文芸部 五年 長崎 桃子

よく聞いていた」と、童謡から歌謡曲と幅広く琴の練習をした結果、喜んでくれて、こちらのほうが、感謝したいくらい、感謝・感謝です。コロナウィルスのため、二年余り、みなさんに会うことは出来ませんが、また、会える日を願って練習をしております。もちろんサークルの曲も頑張って練習しております。

短大部会ですが、今年も役員会が出来るかどうか不安を感じる毎日です。感染者数が減少傾向なので、時間の短縮と、マスクの着用・消毒など気をつけて始めようかと思っております。やはり、文字を通しての連絡より、直接顔を見て話をする方が私は好きです。少しずつ今までの生活に戻ることが出来るよう気をつけていきたいと思えます。

短大部会は、本部役員と理事で成り立っています。毎年、理事さんが入ってくれます。就職されると全体で集まることがなかなか出来ませんが、以前は、集まっていたのですが、段々と出席数が少なくなり、文書報告で済ませるようになりました。

毎年高短祭に、バザーを始めています。最近、中止が続いていますが、今年は、大丈夫かな、出来るかなと心配していますが、出来れば、ぜひ参加してください。バザーの収益金は、各クラスの同窓会の集まりに援助したいと思っていますので、同窓会事務局か、各年度の理事さんを通して連絡していただければと思います。また、樹心同窓会の総会に集まることも一つの方法かなと思います。学苑のホームページを参照して下さい。

今回はこのような名誉ある賞を頂いたこと、同窓会会報誌に掲載させて頂けることを非常に光栄に思っています。この度は詩部門と随筆部門の両方での受賞となりましたが、詩と随筆という異なる表現で作品を創造できたことは非常に価値のある経験になったと思えます。

中学三年の冬、友人からすすめられて入部した文芸部がこれほどまでに大切なものになるとは想像していませんでした。たどたどしい手つきで握っていた鉛筆はもはや、当時のような扱いにくい難解な物質ではなくなりました。それは私の手となり口となり、時には姿を変えて私に翼を与えてくれます。

私にとって文芸とは血液でした。命を懸けてでも作りたい、叫びたいと思ったときに作品は私の中に宿ります。私の中から滴る血液を凝縮し、洗練するとき、果てしなく続いていく道が見えます。これからも行なっていくのだから文芸活動の道が見え、それに圧倒される時、作品は出来上がります。それはもはや血液の形を成してはいません。途方もなく続く道を私が進むとき、一筋の光として私を勇気付けてくれます。

今までの道を振り返ると、色んな人々に支えられてきた、沢山の作品達が見えます。過去を振り返ってみると、私の作品は様々な形を経て今の形に繋がっています。幼いながらにも必死になって叫びを込めた作品はみな、鋭利な武器の形をしています。良くも悪くも私の願いが込められてきたものであり、否定のしようもなく、愛おしいものでした。でも、これからは光のような作品を作りたい。あつ、と目を瞑りたくなるような鋭い光を作りたい。そんな事を時々思っています。

今回の受賞はあくまできっかけにしか過ぎないと考えています。私の人生には多くの奇跡が満ち溢れていて、それはこれからも同じだと考えています。今回の受賞によつて、さらに高いところまで飛翔したい、誰も見たことがないような景色を見たいと思っています。

仲間とつくる文芸

文芸部 岸本 花梨

最後に、私の今を創り、支えて下さった人達に感謝を述べたいと思えます。本当に、ありがとうございます。

今回、第十一回水短歌甲子園において笹公人賞をいただきました。昨年の優勝校というプレッシャーの中、何度も何度も悩みながら改稿してやつと完成させた作品の中の一つなので、本当に嬉しく思います。顧問の先生や、文芸部の仲間たちには、休み時間や放課後など時間をめいっいっぱい使って、作品をよりよくするために批評をしてもらいました。そして今回賞をいただいた短歌は、友だちの短歌にあった「林檎」という単語からインスピレーションを得てつくったものだったので、本当に先生や仲間たちの存在があつたからこそそのものだなあ、と感じます。完成まで付き合ってくださいました方々は感謝しかありません。一緒に悩ん

で考えてくれる仲間がいてくれることが部活動の良さだと実感しました。つくっている間は中々びつたりするような言葉が見つからなかったり、三十一文字に収まらなかつたりと、悩んで悩んで苦しめたのですが、その苦しみを経て納得のいくものに仕上がったので、この経験はとても良いものになったと感じます。納得のいくまでやる、ということの大切さを学びました。

また、審査員の方から賞と作品に対するコメントをいただいたこともとても良かったと思います。芸術というものは一人一人共感したり感動したりするところが違います。そのため「一般的な意見としてこの作品が一番すばらしい」というような評価はできないと思うので、誰か一人にでも「良い作品だ」と思っていただけることが嬉しいのですが、やはりたくさん作品を知っているプロの方に選んでいただいた、ということとは本当に嬉しく自信になりました。

大会は動画での審査になってしまいました。他校とのデイベートや交流が出来ず残念でしたが、作品を外に出して様々な人に見てもらうことは本当に良い経験となるので、ぜひ後輩たちにも出場してもらいたいと思います。将来、文芸関係の仕事を目指してはいませんが、三十一文字で自分の世界観や意見を表現できる短歌や、納得のいくまで試行錯誤をしたという経験はいろいろなことに生かしていけるので、これからも文芸を続けていきたいです。お読みいただきありがとうございます。

笹公人 審査員賞作品

店頭で沈黙のまま列を成す

選り抜かれた林檎ばかりが

将棋部 本田 竜大

将棋は、いつも答えがあるとは限らない。これは、「全国高校将棋選手権大会」での戦いを通して私が感じたことだ。その戦いとは、全国大会の決勝戦だ。

決勝の将棋は私が優勢を築き上げていた。このまま攻め続ければ全国優勝が見えてくる。そう思っていた矢先に、状況を一変させる事態が起こった。相手が意表の一手を放ち、私は何をすればいいのかが分からなくなった。たつた一手と思われるだろうが、これによつて「答え」がない将棋へと変わってしまったのだ。ここで言う「答え」とは次の一手のことを指すが、通常では一局面での次の一手は七十通りあると言われる。この中から一つの最善を探し出すわけだが、本局のように最善の手が存在しない場合もある。

なぜなら七十手もの選択肢の中でどれを指しても優劣が変わらないからだ。私はどの手を指しても形勢が変わらないという異常事態に直面して、危機感を感じた。こういう状況ではどれを指そうかという迷いや異常な事態へのうろたえが出かねない。私は過去に何度もこうやって負かされてきた。

しかし、私は知っていた。答えのない将棋ほど勝てる方法を。その方法とは、「あえて考えない」ということだ。答えがないのなら答えを探す必要はない。その代わりに「自分らしさ」を出してみるのだ。最善の道突き進むのは困難でも、自分が進みたい道なら直感が教えてくれる。それを信じて迷わないことが勝負を握る鍵になるのだ。

決勝では、自分の進むべき道を進んだ。解説者も観戦者も対戦相手も私が道の選択を誤ったと思っただけだ。現に解説者は「攻め急いでいて変調」と評価していた。最後まで私が負けると思われていただろうが、最後の一手を指した瞬間、私の勝ちになっていた。

「私にとつての馬術」

馬術部 吉永 真由子

私は、北海道で開催された「第三十二回全日本高等学校馬術選手権大会（全国大会個人戦）」でベスト4という成績を残すことが出来ました。

東海地区予選では、最終枠四位でギリギリの通過でしたが、全国大会初戦から準々決勝までは馬との相性も良く順調に勝ち進むことが出来ました。準決勝では、技術面でも精神面でも数段上の方と戦い完敗でした。その戦いで緊張の糸が切れ、続く三位・四位決定戦では、私の弱いところが出て負けてしまいました。しかし、高校選抜メンバーには選ばれオーストラリアへの遠征が決まりました。とても嬉しく楽しみにしていました。が、新型コロナウイルスの影響で残念ながら中止になってしまいました。しかし、東京競馬場で高校選抜メンバーとチームを組み、JRA選抜少年団との競技会が開催されることになり北海道以来の再会となりました。戦った相手が仲間となり一緒に戦った。これまで私が経験したことのない事でした。いざ、競技になるとチームとして応援してくれ、同じように私も応援し、チームワークの喜びを再認識しました。結果は、高校選抜チームの勝利となり、日帰りでの東

京遠征は私にとつてとても良い経験になりました。

私は、中学まで熊本で育ち茨城国体で高田高校の河北コーチと初めてお会いしました。その時に、声を掛けて頂き興味を持ちオープンスクールに参加し、学校施設や学習環境の良さに魅かれました。そして、何より馬への愛情や部の温かい雰囲気がこの学校に通いたいという決心に繋がりました。無事に進学が決まり、親元を離れてみると一人で炊事、洗濯等今まで当たり前にして貰っていた事をどんなにきつくても全て自分でやらなければならなくなりました。でも、いつかは皆通る道だと思えば、少し気楽になれるし特に馬がいることで苦に感じる事無く楽しく過ごせています。

私は、三重国体で優勝することが大きな目標の一つでしたが、中止となつてしまいました。それでも、元オリンピックの奥野コーチや河北コーチ、OB・OGの方々へ指導や沢山のサポートをして頂き、私としても成長できたと思います。今までもやってきた日々の積み重ねは、決して無駄ではなく確実に私の為になるものでした。そして、私のもう一つの大きな目標は個人と団体共に日本一を取る事です。毎日一緒に練習をし、苦しい時には支えてくれる仲間と大きな舞台に立ち、大きなトロフィーを貰う事が私の夢です。その夢を叶える為にも技術面や精神面をもっと高めて、これからは頑張っていきたいです。



お礼状（インターハイを終えて）

卓球部 前出 陸社

この度は、お祝い金をいただきありがとうございました。今回のインターハイはベスト8以上を目標としていたので負けてしまったときは悔しい思いが大きかったです。来年のインターハイでは、自分が最高学年なので、必ず優勝します。

特に、試合までに練習してきたことは、カット打ちと体づくりです。自分はカット打ちが苦手なので、試合前にカットマンとあたる組み合わせが決まった時から練習をやり込んできました。三重県ではなかなかいない戦型なので、大学生の練習パートナーに指導をしていただいて、そのおかげでカットマンの選手にはストレートで勝つことができました。体づくりでは特に走り込みを多くしました。毎日走るということは、肉体的にも精神的にもしんどいことなので、心身が鍛えられたなど実感することができました。

良かった部分の反面、課題も見つかりました。それは、左利きの選手と対戦した場合にレシーブから崩されてしまつて自分の展開に出来ないことが多いです。あと、右利きの選手と対戦するときよりもどうしても苦手意識が出てしまいます。左利きの選手に勝てるようになるためにこれから練習していきたいです。

「全国大会が終わって」

放送部 5。生杉 綾香

私は、第六十八回NHK杯全国高校放送コンテストのアナウンス部門に出場しました。去年の大会が新型コロナウイルスの感染拡大のため中止されてしまったため、今年がはじめての挑戦でした。

私は中学一年生から放送部に所属し、今年でアナウンスを始めて五年目になります。今回初めての高校での大会で、しかも、初めての録音審査形式でした。中学校の大会と同じ録音審査形式であったことで、囁んでしまうことや、時間制限を破つてしまうことなど、失敗の心配がないことに、内心ラッキーだなと思えました。

しかし、録音をはじめた大会一ヶ月前から、「もしかして完璧なものが録れないのでは」という焦りや、「終わりが見えない不安」を感じるようになりました。一つ良くなったらどこか失敗してしまつて、常に点数をつけるとすれば、八十六点のような感じでした。録音なので完璧にできる、しなければという気持ちですが、次第に自分への縛りになっていきました。

録音最終日、顧問の先生方が、録音場所に講堂を用意してくださいました。自分の声が講堂全体に広がって、大会のような「伝える」アナウンスができたと感じました。最後のテイクに、「これで終わりだ！完璧だ！」という達成感を自然に感じられたのは、今でも忘れられません。大会が終わわり、私は、部長という役割をいただきました。自分が、次の世代へ教える、導くという立場であることに、今はプレッシャーを感じ

じますが、来年、相手が見える、伝えることができる大会に参加して、より良い成績をいただけるよう、頑張っていこうと思います。

放送部 4。小林 杏

第六十八回NHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門において、入選という成績を残すことができたのは、部全体が一丸となって大会に向け、取り組んだアナウンス練習と部員同士の支え合い、顧問の先生による丁寧な指導のおかげだと思います。

私は元より集中力がなく、何事にも真剣に取り組めない人間でした。放送部での仲間との活動はそんな私の意識を変えてくれました。放送部で活動するうちに、朗読の上達や大会の成績への向上心が生まれていました。ですが、それと同時に、自身の実力不足への焦りも生まれていました。自主練習の際にも、何が正解なのか分からず、暗闇の中を模索するような気分です。息苦しさを感ずるのを覚えています。私は練習を重ねることで、この焦りと不安を拭い去ることを試みましたが、思うようになりませんでした。

しかし、自信を失いつつあった私を支えてくれる存在がいました。放送部の仲間と顧問の先生です。顧問の先生の指導は、一人では気づけなかつたミスや弱点の発見の連続で、実力の向上へ繋がりました。指導を受けるたびに、自分の朗読が良くなっているのを感じました。また、朗読をする上での苦勞を仲間と分かち合うことで、緊張が解け、肩が軽くなるのを感じました。私が大会で入選することになったのは、私が入った部活が高田高校の放送部だっ

たからだと思っています。私を支え、励まし、力を与えてくれる仲間や顧問の先生と出会えて良かったです。来年の大会では、今年の経験を生かし、更に部活動に励み、部全体でより良い成果を残したいと思っています。

ラジオドキュメント

「文理選択はもう古いの。」

放送部 Ⅱc 西前 安優美
Ⅱc 分部 光貴

私たち放送部は、七月二十九日に行われた第六十八回NHK杯全国高校放送コンテストへ出場し、ラジオドキュメント部門で「文理選択はもう古い？」が準決勝に進出し、優良賞(第四位)を受賞しました。

現在、日本の普通科高校では二年または三年に上る際に文系理系にわけられる高校がほとんどです。しかしグローバル化や多様性を求める現代社会において、文理どちらかに偏った力を持つ人材は自分の活動の幅を狭めてしまう可能性があります。そこで、高校生の文理制度に対する意識を明らかにし、現在高校の教育と今後の社会においての問題提起をする番組を制作したいと考えました。

番組を制作するにあたって、文理選択をした生徒や文部科学省の方、大学の先生など、たくさんの方に協力頂きました。貴重な意見をまとめることに苦労しましたが、内容が硬いものを飽きないように聞いているために、ナレーションを明るくし、インパクトのある効果音を使用しました。

この作品を通じて皆さんが進路を考えるときに少しでもお役に立てればうれしいです。今回も、取材や撮

影に協力していただいた方々のおかげで、大きな舞台で発表することができました。この場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。今年はおと一歩のところで決勝の舞台を逃しましたが、今後、さらに技術を磨き、練習・研究をして、来年は決勝の舞台へいきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

個人

念願の日本一

新体操部顧問 堀 孝輔

令和三年十一月二十六日(金)から十一月二十八日(日)に第七十四回全日本新体操選手権大会が開催されました。本大会はジュニア、高校生、大学生、社会人の各世代における全国大会の上位選手のみが参加できる男子新体操最高峰の大会です。その大会において、個人総合優勝、種目別スティック二位、種目別リング優勝、種目別ロープ三位、種目別クラブ優勝という結果を取ることができ、とても嬉しく思います。

男子新体操には実業団がないため、一般的に大学で競技から退きます。私も昨年の同大会で最後の演技と思ひ、優勝を目指して出場しました。しかし、演技の出来栄で満足いかない部分があったことに加え、結果に関しても準優勝であったことから諦めきれない気持ちがありました。社会人ということで非常に悩みましたが、選手として続けることを決めました。決意をしたものの、新しい環境での生活が始まり、限られた時間のみでの練習で、社会人選手としての難しさを痛感しました。しかし、

本気で競技と向き合うと決めたからこそ中途半端で終わらせたくない気持ちと厳しい境遇だからこそやり遂げる意味があると思ひ、本大会までの練習に励むことができました。そして、何より多大なる応援やご支援があったからこそ、それが活力となり、競技に打ち込むことができました。心より感謝申し上げます。これからは私だけでなく、生徒の活躍をご報告できるように精進して参ります。

会員だより

【親鸞聖人の月命日に同窓会】

昭和五十年卒業 中学校三年制

草川 知美

金木犀の香り漂う秋晴れの朝、専修寺唐門の前で、高田中学同級生六人が待ち合わせをしました。

親鸞聖人の月命日(毎月十六日)には、如来堂勤行、御影堂勤行、常在説教聴聞をいただけるというお話を、耳にした事によりです。

長年会つていなかった皆が顔を合わせると「京ちゃん、めっちゃ久しぶりやなあ」「久美ちゃん、元気やったあ」と、声のトーンは還暦を過ぎているとは思えない！セーラー服に身を包んでいるのではないかと思うほどでした。

同級生が集まると不思議です。一瞬にして、机を並べて学んでいた「あの頃」にタイムスリップです。御影堂勤行が始まると当時、御堂



高田学苑開校
150周年記念行事
～甦る青春！
高田本山専修寺
探訪～

開校150周年記念行事として、高田中学校、高田高等学校、高田短期大学ご卒業のご本人と家族限定で、国宝である高田本山の諸堂巡りを解説付きで行います。ふだんは入れない場所へもご案内します。若かりし頃の想い出とともにゆっくりと高田本山を散策しませんか？

●●●日にち●●●
令和4年10月24日(月)
午前中

お申し込みは、郵送(当日消印有効)またはE-mailで。(別紙)
お問い合わせは、高田短期大学 大橋まで。
電話：059-232-2310

向いて歩んできた今、改めてお説教をいただく、身に染みて受けとめる事ができて有難かったです。この度、専修寺を訪れて高田学苑で学ばせていただいた事に、感謝の念を抱きました。ふりかえれば、比叡山延暦寺へ紅葉狩りに行き「一隅を照らす 是即ち国宝なり」の御言葉を拝見すると、林間学校での眠かった早朝の参拝、仏教講話、汗を流して歩いた諸堂巡りなどが思い出されます。

また、四月八日の花祭りを迎える「天上天下唯我独尊」と眩いたり、生活の色々な場面で学ばせていただいたりした事が、今も生きています。皆さま方も、この様な「小さな同窓会」は、いかがでしょうか？同級生とは「ほっ」と心温まる、格別な魅力があると思われませんか？

これからは末永く、気軽に同級生が集まって心許した会話を楽しみ、思い出話に浸るだけでなく、これからの夢ある将来の話も語り合える事ができればと願っております。

平成八年高校卒業
結 城 さおり

樹心同窓会会員の皆様、いつも応援をいただきありがとうございます。コロナビアレコードの演歌歌手結城さおりです。



小さな頃から演歌が大好きで小学生の頃からカラオケ大会や発表会など出場してきました。しかし高田高校在学中は、同年代の友達の前では恥ずかしくて演歌を唄っているのを内緒にしていました。ほとんどの友達が大学に進学を希望する中、私もみんなと同じように当然進学する事だと思っていました。高校三年生の進路相談のとき、急に『このまま学校に進んでいいのか？私の一番好きなものは歌ではないのか？』と悩んだ結果、志望を白紙で提出しました。

その時に私の気持ちを親身に聞いてくださり背中を押してくださいましたのが、三年生のときの担任西中先生でした。西中先生に『迷いを吹っ切らするために一度文化祭で唄ってみてはどうか？』と提案していただき、音楽の先生のピアノの弾き語りで津軽海峡冬景色を唄わせていただきました。その時、客席（先生や生徒の皆様）からウエーブが起きて、それはとても気持ちよく、『私、歌手になろう！』と決断できました。

それから早いもので二十数年（年齢がバレてしまう）！毎年新人歌手が何百人もデビューしては消えていく厳しい世界で、有り難いことに私は地元の皆様、高田学苑先生方、OBの皆様を支えられ唄って参りましたが、今コロナ禍で、私たち歌手は人前で唄うことがままなりません。

コロナ禍の二年半、緊急事態宣言が出てカラオケ禁止令が出たときには仕事が0の月もありました。二十数年の間でこんなに未来について考えた時期もなかったかもしれません。まだまだコロナが収まらない中ではありますが、徐々に国の厳しい制限がなくなりつつあり、大きなイベントも開催されるようになってきました。今回私もファンの皆様からの二年半ぶりに思いきってまたコンサートをしてみたいかがかというお声で、四月には地元津市でワンマンコンサートを開催させていただきました。

卒業してずいぶん経つのに高田学苑関係者の皆様にも応援に駆けつけていただき本当にありがたかったのと同時に、このコンサートで改めて私は唄が大好きと言う高田学苑在学中のあの気持ちを思い出させてくれました。

まだまだこの状況がいつまで続くか、どうなるか誰にもわかりませんが、常に自分を磨きながら頑張っていきたいと思えます。十月十日（祝）には亀山市文化会館で演歌歌手五人でコンサートも決定いたしました。同窓の皆様におかれましては、これからもご健康で毎日笑顔で過ごされますようお願いいたします。今後ともご支援のほど、よろしくお願いたします。

写真投稿

同窓会役員で旧中学校部会長の山口俊二（旧制中学校昭和二十二年卒業）様より学生当時の貴重なお写真をお寄せいただきました。



山口俊二さんと久保田藤典さんは同級生です。

久保田さんは中学三年当時、海軍甲種飛行予科練習生（予科練）として、航空隊に入隊しました。終戦により復学。陸上部で活躍しました。山口さんは、昭和十九年から二十年八月まで学徒動員で飛行機の制作に携わり、終戦後は、高田中学校の野球部員として、高田のグラランド（高田のグラランドだけは芋畑にならず、グラランドとして使われた）でGHQの米軍兵と野球をして、チョコレートやガムをもらったそうです。

樹心同窓会協力金にご賛同いただいた会員の皆様

令和 3 年度

卒業年度順（敬称略）

令和 4 年 3 月 31 日現在

山 口 俊 二 (旧中 S 22)	安 井 広 伸 (高校 S 55)
伊 藤 清 一 (高校 S 28)	中 村 文 彦 (高校 S 55)
中 川 恒 太 郎 (高校 S 30)	水 谷 広 美 (高校 S 55)
服 部 丈 澄 (高校 S 31)	水 佐 野 智 (高校 S 55)
藪 谷 為 雄 (高校 S 37)	太 田 義 人 (中 6 S 55)
梁 井 と し 子 (中 3 S 42)	尾 上 恭 吾 (中 6 S 55)
河 戸 隆 (中 3 S 42)	森 田 由 之 (中 6 S 55)
安 井 敏 一 (高校 S 44)	山 下 恵 (短大 S 57)
伊 藤 明 三 (高校 S 45)	宮 村 八 潮 (短大 S 57)
坂 口 延 男 (高校 S 45)	稲 垣 美 幸 (短大 S 57)
川 北 恒 光 (高校 S 45)	岡 公 任 (高校 H 2)
刀 根 芳 美 (高校 S 45)	森 明 彦 (中 6 H 2)
杉 原 正 則 (高校 S 45)	岡 本 理 沙 (中 6 H 12)
北 端 一 子 (短大 S 45)	大 江 健 吾 (中 6 H 21)
河 村 英 樹 (高校 S 45)	竹 市 絵 里 花 (中 6 H 22)
川 原 林 義 弘 (中 3 S 52)	上 林 千 紗 (中 6 H 22)
前 川 正 登 (高校 S 53)	南 雅 俊 (高校 H 22)
山 川 勝 弘 (高校 S 55)	西 久 保 愛 実 (中 6 H 22)
内 田 明 (高校 S 55)	宇 陀 木 人 (高校 H 29)

●ご協力いただき誠にありがとうございます●

ふるさと津かがやき寄附
『三重短期大学及び私立学校応援分』
の寄附募集の開始

令和 4 年 4 月 26 日より津市のふるさと納税では、ふるさと津かがやき寄附「三重短期大学及び私立学校応援分」の寄附募集が始まりました。これにより、津市以外の居住の方が津市内の短期大学及び私立学校を指定して寄附ができるようになりました。この制度を利用して高田短期大学、高田高等学校の応援をよろしくお願いたします。寄付金につきましては、教育環境整備事業に活用させていただきます。

詳細は津市のWEBサイトをご覧ください。

津市—ふるさと津かがやき寄附(ふるさと納税) city.tsu.mie.jp



昭和二十二年二月十二日撮影 卒業を目前に玄関前にて

